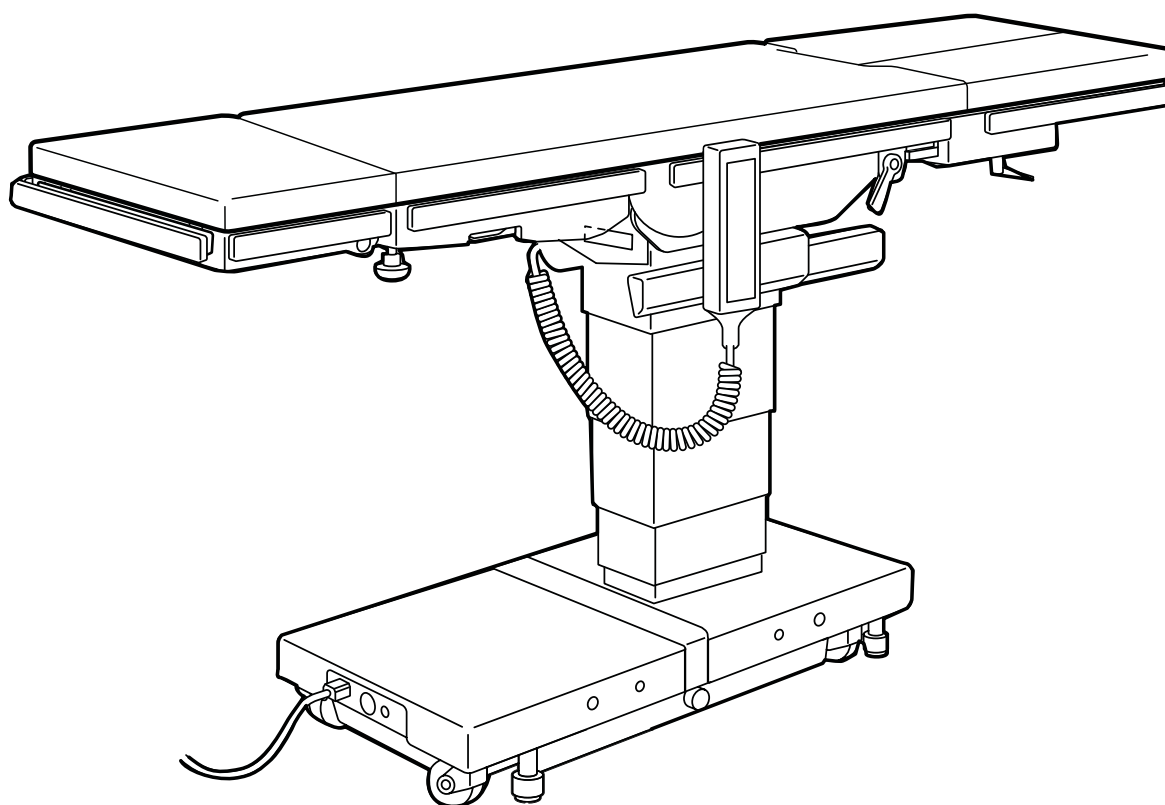




電動油圧手術台 取扱説明書

MOT-5701



手術台は手術を目的として設計されています。手術以外の目的で使用すると重大な事故を起こすおそれがあります。

操作や保守を行う者は必ず添付文書および本書を読んで内容を理解してください。

添付文書および本書は、この手術台に関わる者の参考のために適切な収納場所に保管して、必要なときに読めるようにしてください。

目次

1 章 はじめに	1
2 章 保証について	5
3 章 お使いになる前に	7
4 章 各部の名称	15
5 章 操作方法	19
設置と充電	20
電源の入れ方／切り方	28
手術台の固定と解除	29
ブレーキを解除する	30
テーブルトップを横に傾ける（横転）	31
テーブルトップを縦に傾ける（縦転）	33
背板を傾ける	35
テーブルトップの高さを変える	36
テーブルトップをスライドさせる	38
フレックス	40
自動水平復帰	41
頭部板の調整	42
背板の調整	44
脚板の調整	47
6 章 保守と点検	51
7 章 仕様	55
8 章 操作ボックスが使えないときは？	59
手術台を操作する	60
9 章 修理を依頼する前に	61

1 はじめに

2 保証について

3 お使いになる前に

4 各部の名称

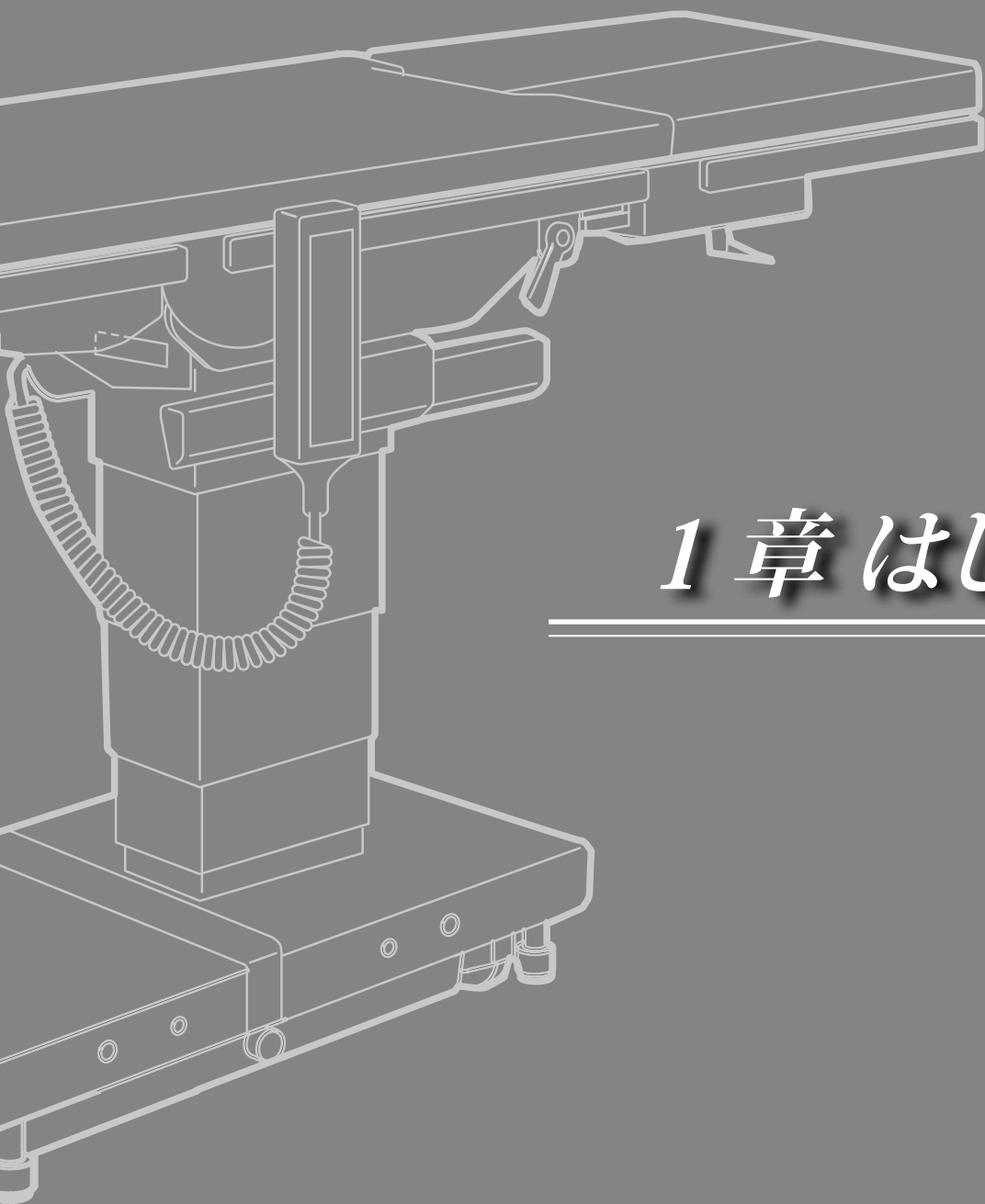
5 操作方法

6 保守と点検

7 仕様

8 操作ボックスが
使えないときは？

9 修理を依頼する前に



1 章 はじめに

Introduction

はじめに

■ 本書について

本書は、本機を安全に、効果的にご使用いただくための取扱説明書です。

- ・ 本機をご使用いただく前に、必ず本書を読み、操作・点検・修理要領を十分理解されてから使用してください。

本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくことがあります。

本書の警告および注意内容、または本機に貼り付けた警告および注意内容を理解していただくため、安全のための情報を次のように使い分けています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

補足

この表示は、製品の機能について補足事項を示しています。

本書に記載されている操作・点検・修理に関する注意事項は、本機を手術の目的に使用する場合には関するものです。

手術以外の目的に使用する場合、および本書に記載されていない操作・点検・修理を行う場合の安全については、すべて使用者側の責任となります。

■ 本機について

本機は、手術が必要な患者を乗せて手術をするテーブルです。

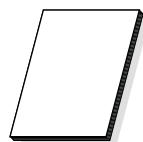
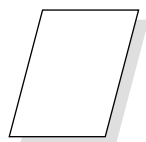
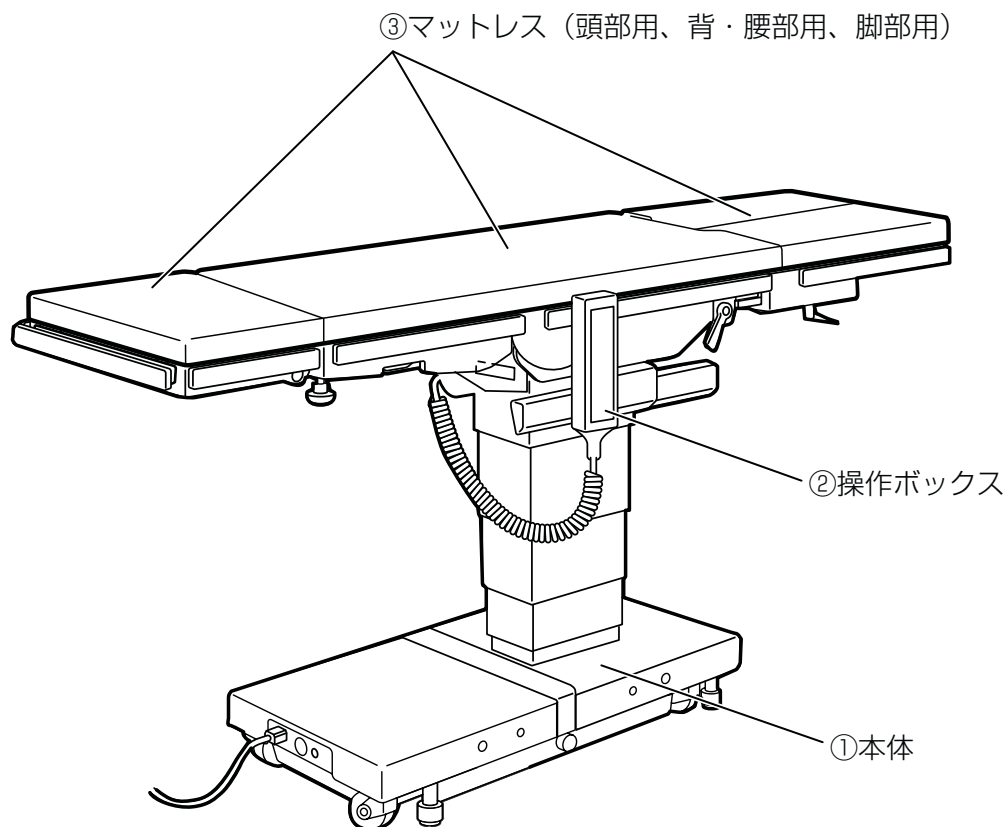
本機は外科手術において、患者を支持することを目的としています。

目的とする手術に合わせて高さの調整や、患者の体位を自由に変えて固定する機構を備えています。

電源は医用コンセント電源式・電池電源式の併用式です。

病院の手術室でにおいて、本機の使用方法を熟知した医師・看護師・医療機器の技術者が使用してください。

付属品



2章 保証について

Warranty

保証について

本製品は下記の保証修理規定に従って修理いたします。

<保証修理規定>

1. 保証期間は納品 / 設置日から一年間です。保証期間内に添付文書・取扱説明書・貼付ラベル等の注意書に従ったご使用で故障した場合には無償修理をさせていただきます。
2. 修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店または弊社営業所にお申しつけください。お申しつけに当たっては以下の内容をご連絡ください。
 - (ア) 型名
 - (イ) 製造番号 (製品のラベルをご確認ください: 注)
 - (ウ) 故障の状態
3. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (ア) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (イ) お買い上げ後の設置場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ウ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (エ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (オ) 消耗製品が自然劣化し消耗部品を取り替える場合。
 - (カ) 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。
4. 保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。
5. 本規定は日本国内においてのみ有効です。

以上

注：13 ページ ⑦ラベル

3 章 お使いになる前に

Before use

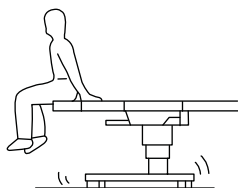
お使いになる前にお読みください

本機を使用するにあたって、以下の行為は絶対しないでください。
手術台の損傷、感電、発火のおそれがあります。

頭部板および脚板

警告

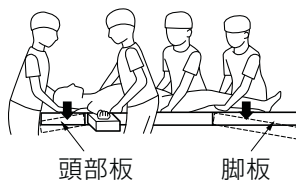
- ・頭部板および脚板に乗らないでください。
転倒、けがのおそれがあります。



注意

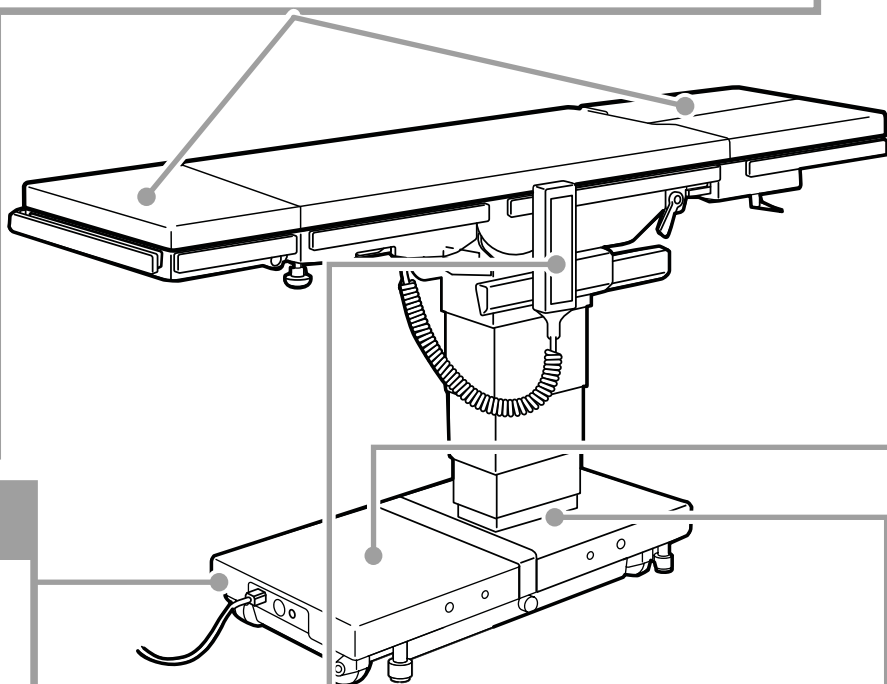
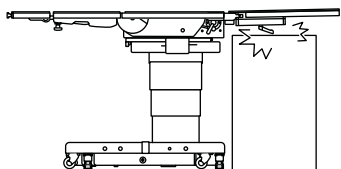
- ・患者をベッドから移し替えるとき（図 a）や患者の体位を変えるとき（図 b）は、頭部板または脚板に無理な力は加えないでください。
手術台が変形または損傷するおそれがあります。

図 a 患者をベッドから移し替えるとき 図 b 患者の体位を変えるとき



注意

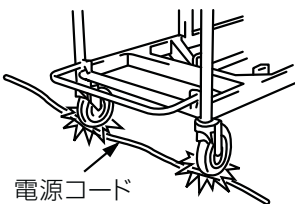
- ・下降および縦転頭上げを作動するときは、脚板下の機器等の有無を確認してください。
脚板が機器等に接触して無理な力が加わると、脚板差込軸が破損するおそれがあります。



電源コード

警告

- ・電源コードの上に重量物を置かないでください。
- ・他の機器のキャスター等で乗り越えないでください。
- ・電源コードは 無理に引っ張らないでください。
- ・電源コードを医用コンセントから引き抜く位置に、引き抜く作業を妨げる物を置かないでください。



操作ボックスの取扱い

警告

- ・操作ボックスのコードを無理に引っ張らないでください。
- ・操作ボックスに 強い衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。

使用時のポジションについて

警告

- ・頭部側と脚部側を逆向きに乘せないでください。脚板が破損するおそれがあります。
- ・必ず付属のマットレスを外れないように確実に取り付けてください。マットレスがずれ落ちて、けがのおそれがあります。
- ・患者のポジションは、サイドレール（金属）から 1cm 以上離して設定してください。電気メスなどの使用でサイドレールが高温になる場合があります、触れると火傷をするおそれがあります。

患者のポジション

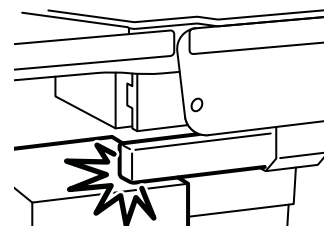
患者のポジションを設定するときは、次の手順で行ってください。

- ① テーブルトップに付属のマットレスを取り付けます。
- ② 患者をマットレスに乗せます。
- ③ 手術の目的に合わせたポジションを設定します。

スライドシリンダー部分

注意

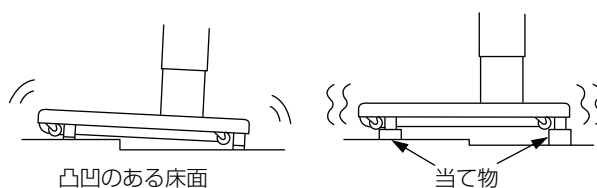
- ・ベースの上に物を置かないでください。物がはさまり手術台が損傷するおそれがあります。



手術台の設置

注意

- ・手術台を凸凹のある床面に設置しないでください。
- ・手術台を高くするために手術台の下に当て物を入れないでください。転倒、けがのおそれがあります。



その他



警告

分解・改造の禁止

- ・手術台を分解または改造しないでください。故障の原因となります。

併用する他の医用電気機器

- ・使用前に電磁波の影響による誤作動がないことを確認してください。
併用する他の医用電気機器から電磁波の影響による誤作動が発生する場合があります。
- ・高周波手術用機器、除細動器を使用するときは取扱説明書を参照してください。誤った使用方は操作者および患者が火傷または機器の誤作動の原因となります。

患者の体位

- ・患者の任意の体位を確保するためにテーブルトップを屈折、または付属品で支持するときは、常に患者の状態を監視してください。長時間の体位は神経麻痺や褥瘡の原因となります。

許容荷重

- ・許容荷重を越える荷重（注）をかけないでください。手術台が作動せず、また故障の原因となります。

注）昇降：360 kg ／昇降以外の作動：270kg

保守点検

- ・使用前・使用後の点検、および適切な保守点検は必ず行ってください。使用年数または使用頻度によっては耐用期間に満たない場合があります。
- ・保守点検については、ご購入店または弊社に相談してください。

高周波手術用機器等の使用

- ・高周波手術用機器、除細動器を使用するときは製造業者の取扱説明書を参照してください。
使用方法を誤ると操作者または患者が火傷をするおそれがあります。

静電気防止

- ・静電気対策が不十分な床またはアクセサリーで使用しないでください。手術の障害になるおそれがあります。



注意

併用する機器やアクセサリー

- ・機器やアクセサリーを併用する前に、それぞれの添付文書または取扱説明書をよく読んで、手術台への影響を確認してください。他社製のアクセサリーを取り付ける場合は、事前にご購入店または弊社に相談してください。
アクセサリーが装着できない場合があります。
- ・手術台を作動するときは、併用する機器やアクセサリーの位置を確認してください。作動中に接触して、手術台または併用する機器やアクセサリーが損傷するおそれがあります。

その他

注意

清掃と消毒について

- ・手術台を使用した後は、必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

清掃と消毒の手順

- ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
- ② 手術台から全てのマットレスを取り外します。
- ③ 糸くずの出ない清潔な布に適量の消毒液をつけて、各マットレスの上面・側面・裏面を拭きます。
- ④ ③と同様の手順で、各テーブル板およびサイドレール表面を消毒します。
- ⑤ 消毒後 15 分以内に清潔な布でから拭きします。

- ・必ず弊社確認済みの消毒液を使用すること。
- ・弊社確認済みの消毒液は次のとおりです。

	薬品名称	商品名（参考）
①	次亜塩素酸ナトリウム 6%（ハロゲン系薬剤）	ピューラックス（6% オーヤラックス）ph11.7
②	ハイポアルコール（ヨード脱色剤）	ハイポアルコール（吉田製薬）
③	クロルヘキシジン（グルコン酸クロルヘキシジン 0.5%）	0.5% ヘキサックアルコール（吉田製薬）
④	塩化ベンザルコニウム（逆性石けん 10%）	塩化ベンザルコニウム（10% 吉田製薬）
⑤	ポピドンヨード	イソジンスクラブ（明治製薬）
⑥	エタノール 80%	消毒用エタノール（80% 吉田製薬）
⑦	オキシドール（過酸化水素水）	オキシドール（建栄製薬株式会社）
⑧	生理食塩水	生理食塩水（大塚製薬）
⑨	イソプロピルアルコール（IPA）99.5%	2-プロパノール（99.5% 和光純薬工業株式会社）

移動時および輸送時の注意

- ・手術台を移動するときは、以下の手順で行ってください。
 - ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - ② ハンドルやレバー類が固定の位置になっているか、また各部がしっかりと固定されているか確認します。
 - ③ ブレーキを解除して、手術台を移動します。
 ※ 感染防止のため、手術台を移動するときは必要に応じて手術台全体を消毒してください。
- ・輸送は以下の条件を満たした状態で行ってください。
 - ① 輸送の前に、必ず手術台全体を消毒する。
 - ② テーブルトップを最低位置まで下げるなど、転倒防止の対策をする。
 - ③ ブレーキを作動させる。
 - ④ 緩衝材などを適切に配置し、輸送中の衝撃による破損を防ぐ。
 - ⑤ コンテナなどに収納して、ほこりや風雨にさらされないようにする。
- ・通過可能な高さおよび幅：高さ 10mm / 幅 80mm

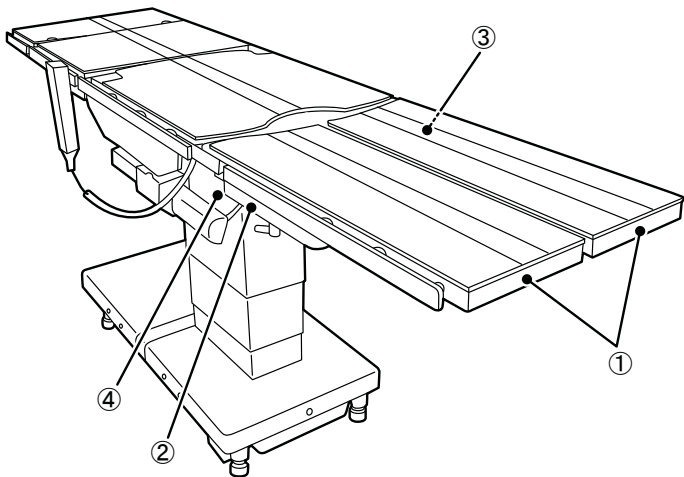
廃棄時の注意

- ・手術台を廃棄するときは、関係する法律または地方自治体の条例に基づいて適切に処置してください。

ラベル内容と貼り付け位置

本機には下記の位置に各種ラベルが貼り付けてあります。
ご使用になる前に必ず各種ラベルの内容をご確認ください。

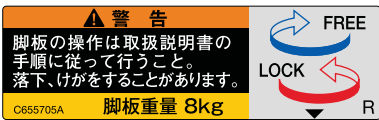
■ 警告・注意ラベル



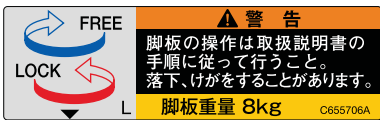
① C655713 警告(脚板)



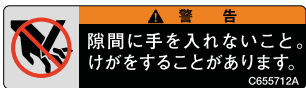
② C655705 脚板重量-右



③ C655706 脚板重量-左

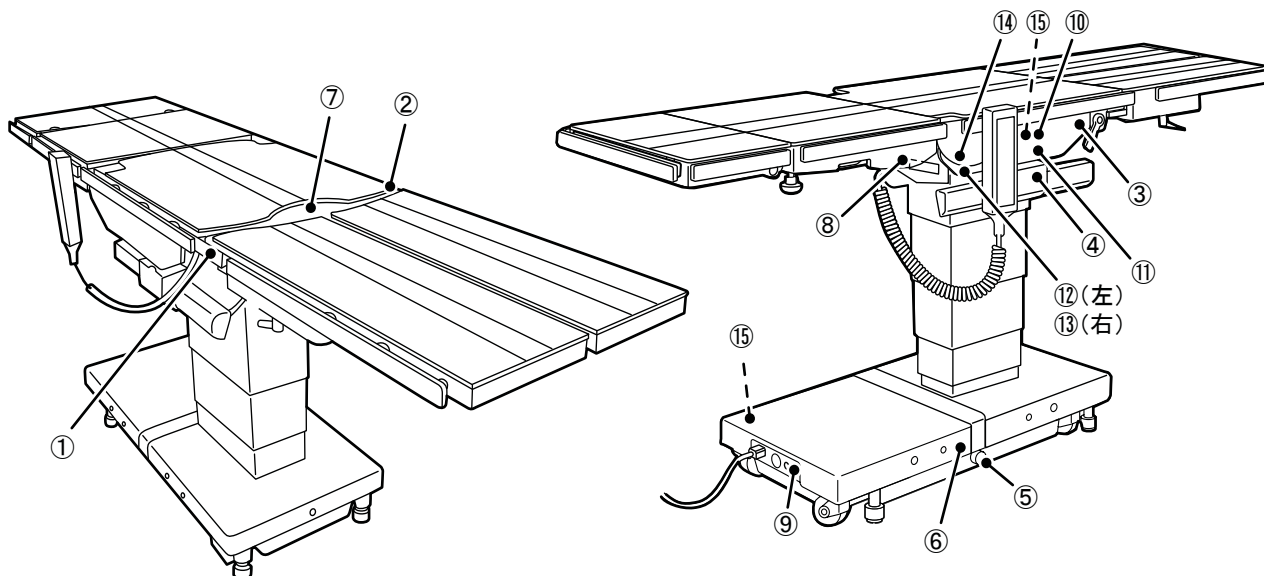


④ C655712 警告(隙間)



■ その他のラベル

3
お使いになる前に



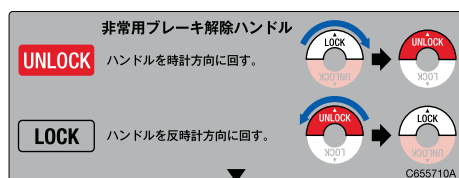
- ① C655702 脚板差込-右 ② C655703 脚板差込-左 ③ C655714 脚板屈折レバー ④ C600020 スライドライン-小



- ⑤ C655711 ブレーキ解除ハンドル



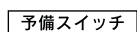
- ⑥ C655710 非常用ブレーキ解除方法



- ⑦ C600876 製造番号・社名 (DC共通)



- ⑧ C655716 予備スイッチ



- ⑨ C653513 等電位化端子



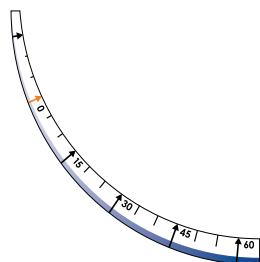
- ⑩ C655715 品名 (5701)



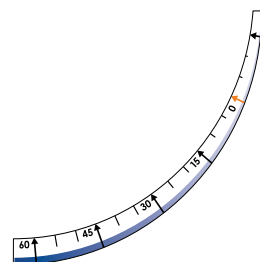
- ⑪ C655717 スライド中点



- ⑫ C655718 背板角度 (左)



- ⑬ C655719 背板角度 (右)



- ⑭ C655720 背板矢印



- ⑮ C653512



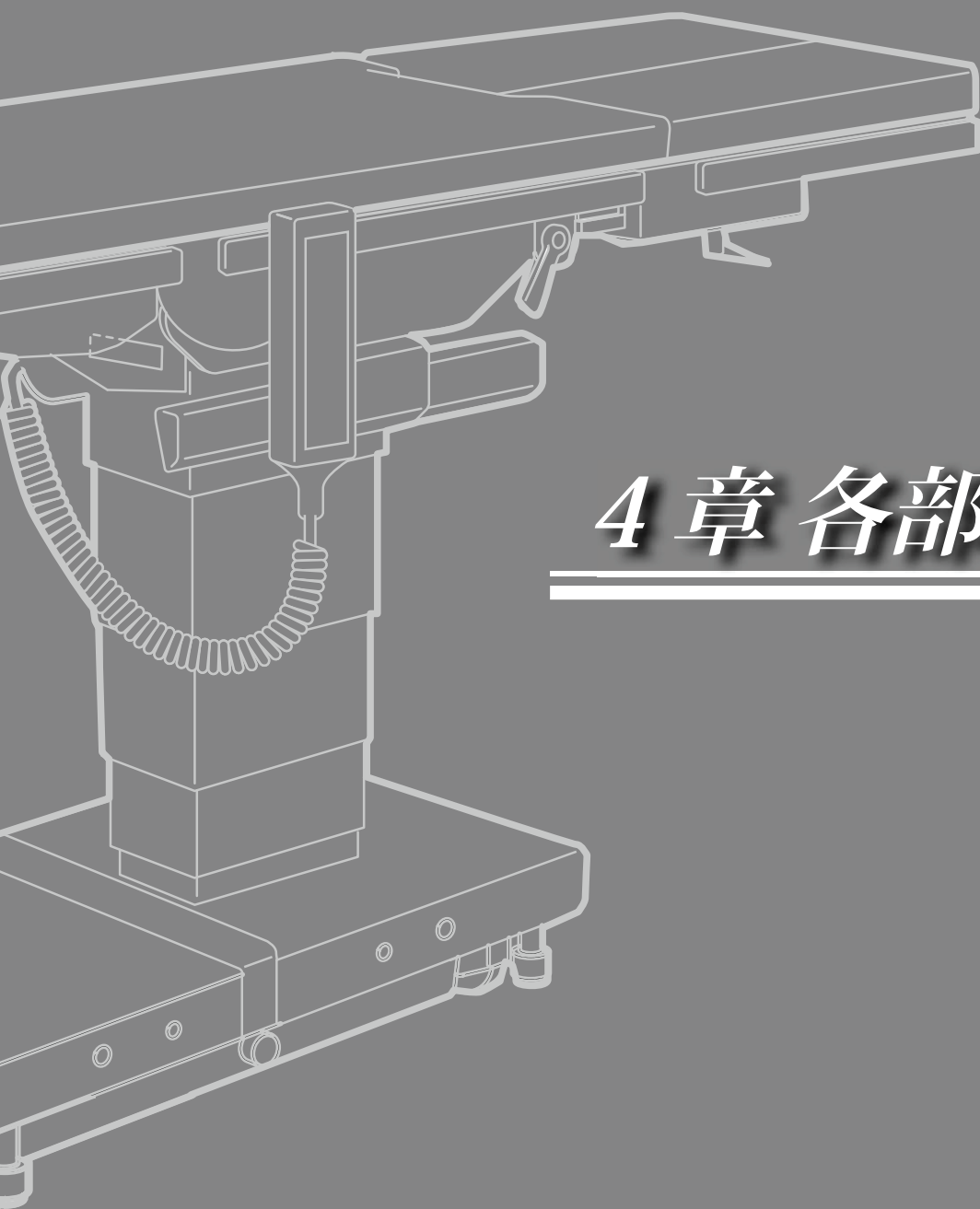
ラベル内容と貼り付け位置

■ 警告ラベル

記 号	解 説	ラベル No.
	一般的な危険標識（警告、注意）	① ② ③ ④
	一般的な禁止標識	① ④

■ その他のラベル

記 号	解 説	ラベル No.
	交流	⑦
	直流	⑦
IPX4	水の浸入に対する保護等級	⑦
SN	製造番号	⑦
	等電位	⑨
	保護接地	⑮



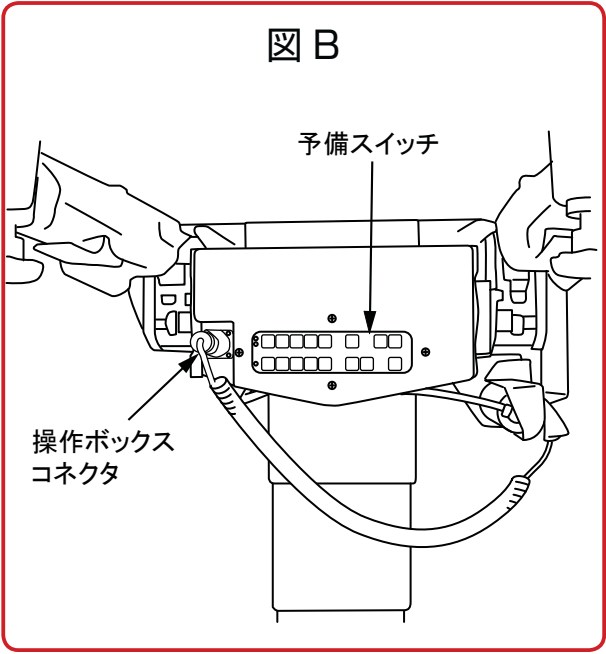
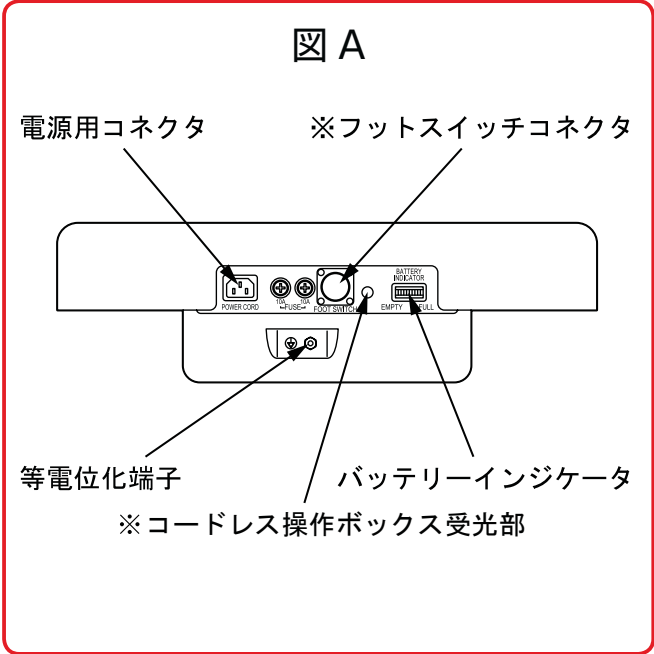
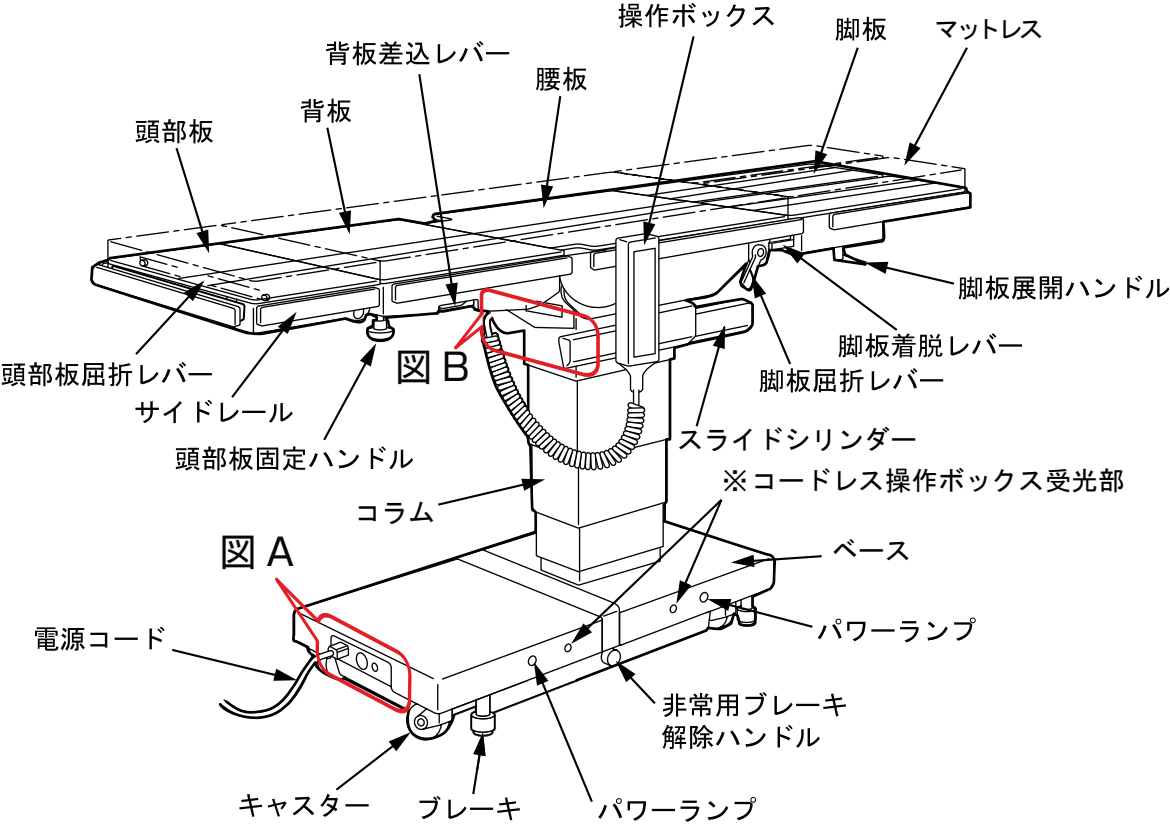
4 章 各部の名称

4 各部の名称

Part names

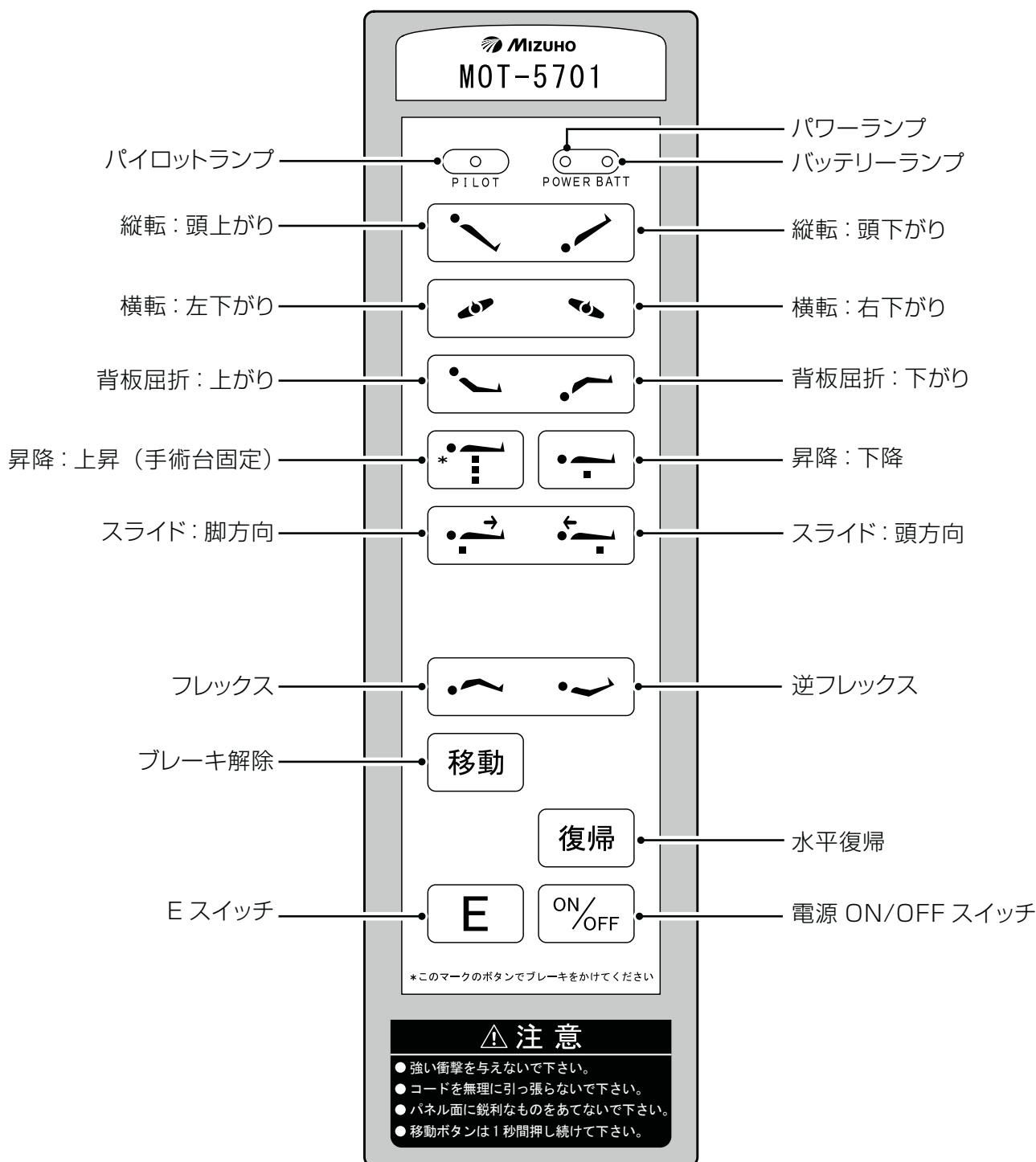
本体

4 各部の名称



※ コードレス操作ボックスおよびフットスイッチはオプション
※ 頭部板、背板および脚板は取り外し可能です。

操作ボックス

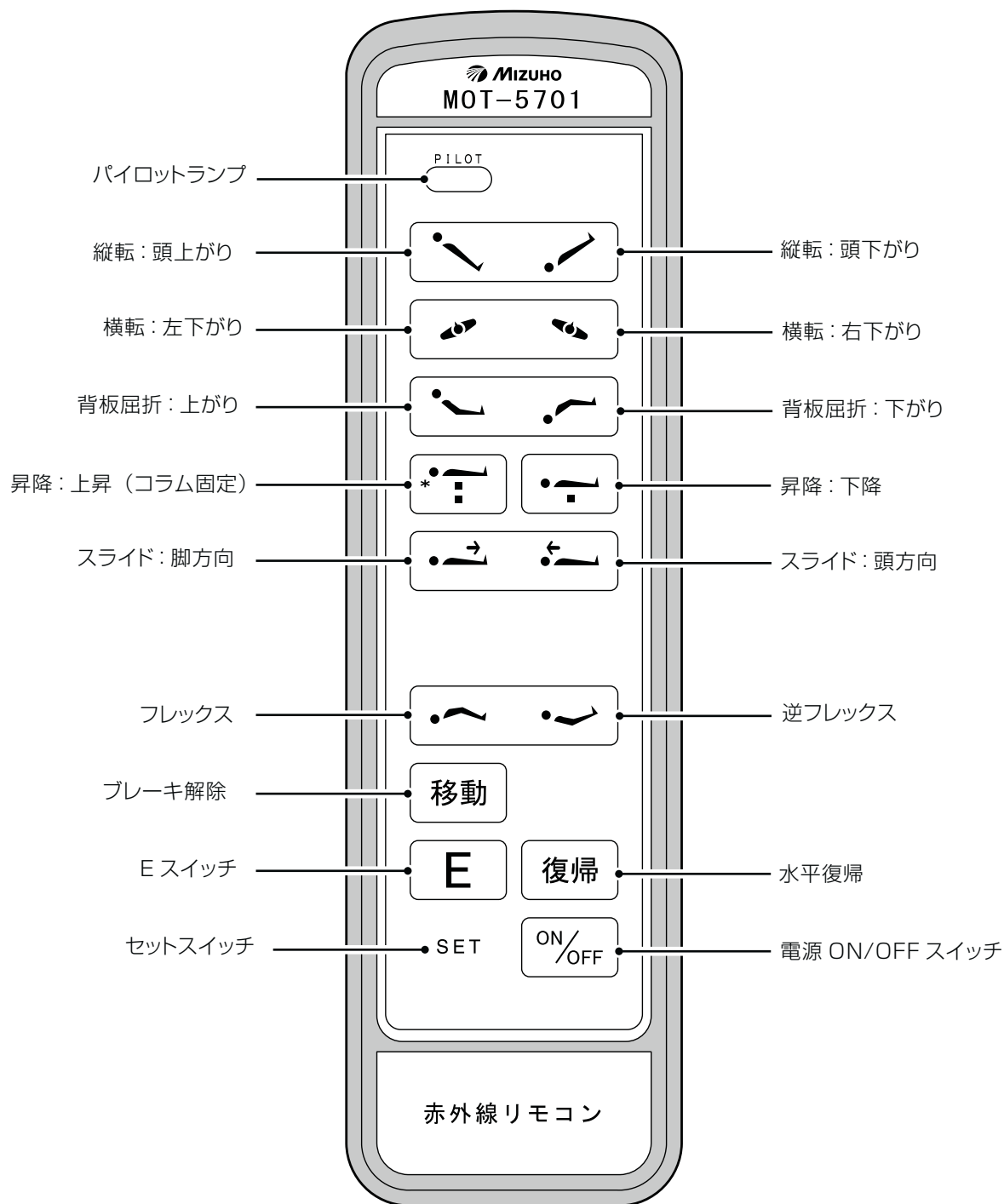


補足

機能ボタンは押している間、作動します。

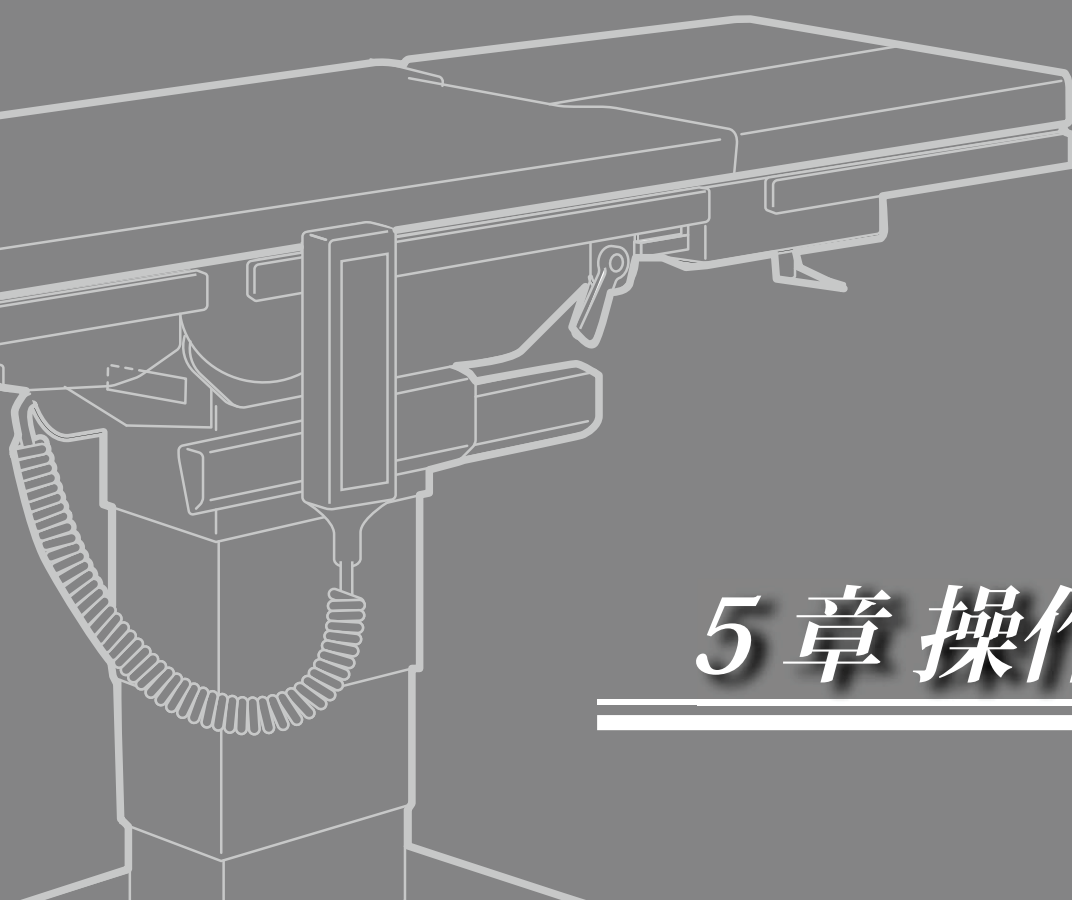
- ・ 操作ボックスのスイッチを連続して3分以上押し続けると、そのスイッチの作動は停止します。停止は約7分間続きます。停止しているスイッチ以外の操作は通常どおり行うことができます。
- ・ **E** を押すとパイロットランプが3秒間点灯します。

コードレス操作ボックス（オプション）

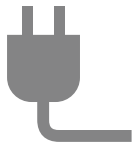
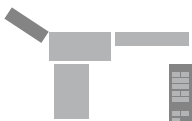
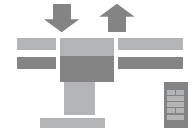
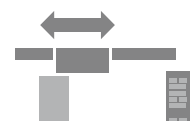
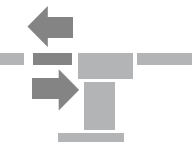


補足

- 操作ボックスのスイッチを連続して3分以上押し続けると、そのスイッチの作動は停止します。停止は約7分間続きます。停止しているスイッチ以外の操作は通常どおり行うことができます。
- **E** を押すとパイロットランプが3秒間点灯します。
- コードレス操作ボックスを使用するときは、コードレス操作ボックスのセットスイッチ **SET** と手術台のロータリースイッチの設定を行ってください。
- セットスイッチの設定方法は、P26～27を参照してください。設定方法が分からないときは、ご購入店または弊社までご連絡ください。



5 章 操作方法

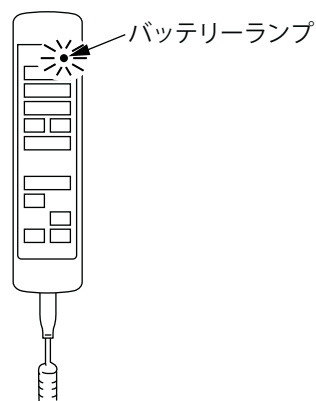
 設置と充電 P20	 電源の入れ方／ 切り方 P28	 手術台の 固定と解除 P29	 ブレーキを 解除する P30	 テーブルトップを 横に傾ける P31
 テーブルトップを 縦に傾ける P33	 背板を傾ける P35	 テーブルトップの 高さを変える P36	 テーブルトップを スライドさせる P38	 フレックス P40
 自動水平復帰 P41	 頭部板の調整 P42	 背板の調整 P44	 脚板の調整 P47	

How to operate

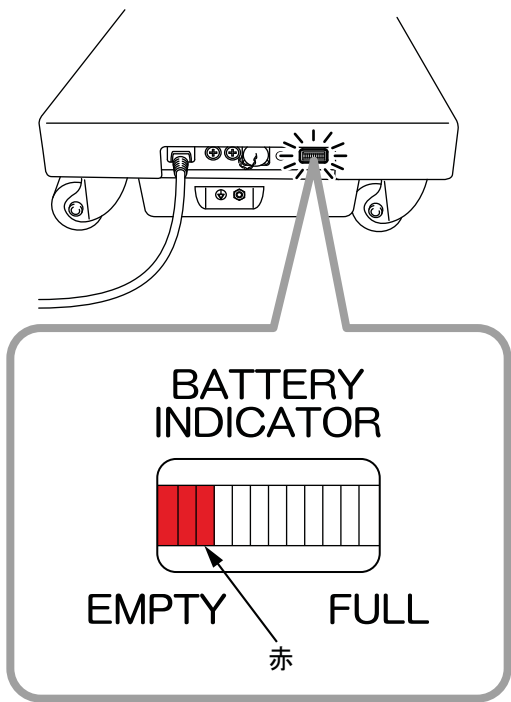
■ 設置する

- ① 平らな場所に移動します。
- ② バッテリーランプを確認します。

操作ボックスのバッテリーランプ(Ⓢ)が点滅したら充電が必要です。



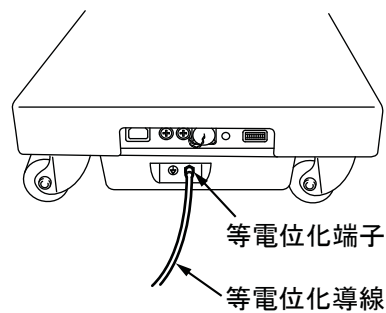
- ③ バッテリーインジケータが(赤)のみになったら充電が必要です。



注意

等電位接地

等電位端子と医用接地端子を等電位化導線で接地します。
等電位化導線は別途用意してください。

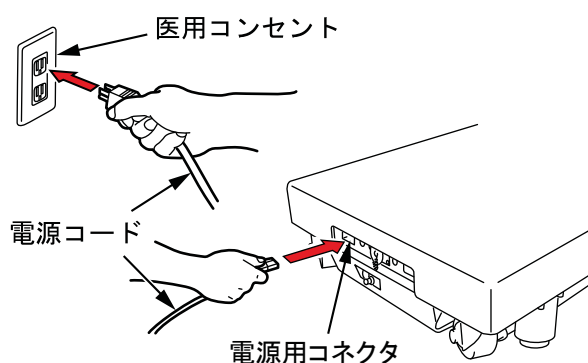




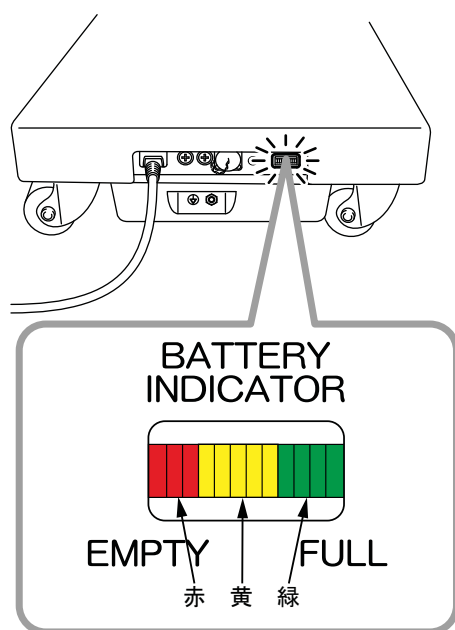
設置と充電

■ 充電する

- ① 電源コードを電源用コネクタと医用コンセントに差し込むと充電が始まります。



- ② 充電中はバッテリーインジケータの(赤)側から(緑)側に順に点滅して充電状態をお知らせします。
- ③ すべてのインジケータが点灯すると充電は完了です。



⚠ 注意

- 感電の危険を回避するために、保護設置を備えた電源に接続してください。
- 電源コードは必ず「MIZUHO」ロゴ付きの専用コードを使用してください。
- 電源用コネクタ内に液体の侵入、または埃などが付着していないことを確認してから、電源コードを差し込んでください。
- 電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。
- バッテリーが劣化すると、停電などで交流電源が使えないときに、バッテリー電源による使用ができなくなります。

補足

- 初めてお買い求めのとき、長い間使わなかったときは、必ず充電してからお使いください。
- バッテリーは使わずに保管していた状態でも自然放電します。必ず充電してからお使いください。
- 手術台使用後に操作ボックスのバッテリーランプが点滅した場合、あるいは使用時に手術台下部のバッテリーインジケータが赤のみ点灯している場合は、直ちに充電してください。充電不足になると交流電源のみ使用可能となり、バッテリー電源による使用はできなくなります。



補足

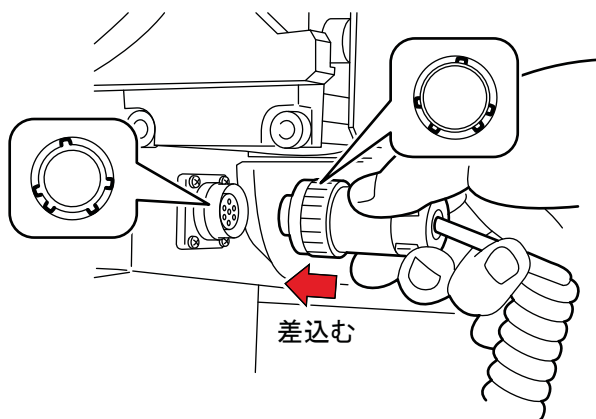
- 本機で使用のバッテリーの耐用期間は約2～3年です。耐用期間を経過したら必ずご購入店または弊社にバッテリー交換を依頼してください。
- 使用条件によってバッテリーの寿命は大きく変わります。短時間使用で頻繁に充放電が繰り返されるとバッテリーの劣化が早まる可能性があります。充電満了まで最長で10時間程度掛かりますので、週一回充電（週末の充電）をお奨めします。
- 充電してもバッテリーインジケータが全て点灯しなかったり、バッテリーがすぐに放電する場合は、劣化が考えられます。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- 充電中でも電源 ON/OFF スイッチで操作可能です。



設置と充電

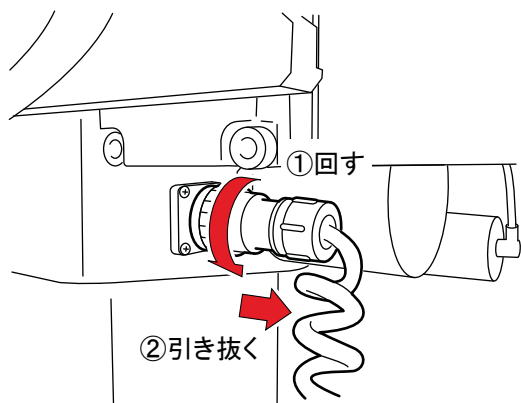
■ 操作ボックスの取り付け

- ① コネクタをガイドに合わせて差込みます。



■ 操作ボックスの取り外し

- ① コネクタのリングを矢印方向に止まるまで回します。
② 止まったら手前に引き抜きます。



補足

操作ボックスのスイッチを連続して3分以上押し続けると、そのスイッチの作動は停止します。停止は約7分間続きます。停止しているスイッチ以外の操作は通常どおり行うことができます。



設置と充電

■ 自己診断機能

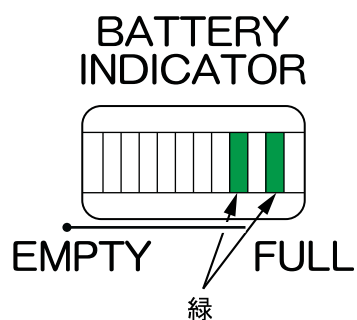
本品には、手術台本体および操作ボックスの正常・異常状態を確認する自己診断機能が内蔵されています。

① 電源コードを接続します。

② 操作ボックスの  を押します。

③ 操作ボックスの  と機能スイッチの 1 つを同時に押します。

このときバッテリーインジケータの緑が 2 本点灯すれば操作ボックスは正常です。



操作ボックス正常

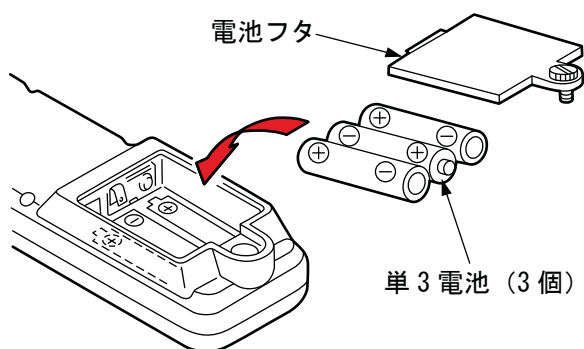


設置と充電

■ コードレス操作ボックス (オプション)

準備

- ① マイナスドライバーで、コードレス操作ボックスの電池フタを外します。
- ② 単 3 電池 (3 個) を入れます。



⚠ 注意

- 新旧、異種の電池を混ぜて使用しないでください。
- 強い衝撃を与えたり水をかけないでください。
故障の原因となります。

補足

- 電池の寿命は平均で 1 年です (使用状態によって異なります) が、コードレス操作ボックスを操作して作動が不安定になりましたら電池を交換してください。
- 電源コードを外して 6 日以上電源を入れない状態を続けると、バッテリー保護のために、コードレス操作ボックスの電源スイッチが機能しなくなります。
6 日以上電源を入れなかった状態から再使用するときは、本体に接続した操作ボックスで電源を入れてから使用してください。
- コードレス操作ボックスで電源の ON / OFF を操作する場合は、手術台のバッテリーが FULL の状態であることを確認してください。

■ コードレス操作ボックス

(オプション)

設定

コードレス操作ボックスを使用するときは、コードレス操作ボックスと手術台のロータリースwitchの設定を行ってください。

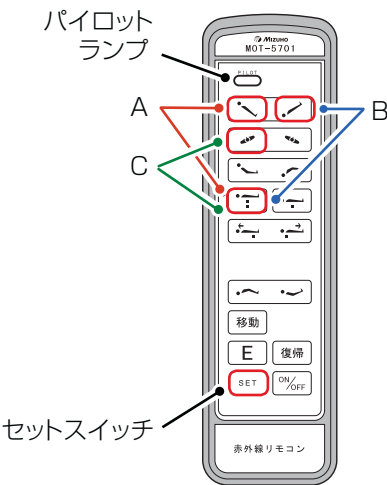
設定方法が分からないときは、ご購入店または弊社までご連絡ください。

1. コードレス操作ボックスの設定

- ① セットスイッチ E を 7 秒以上押します。
- パイロットランプが点灯します。
- ② セットスイッチを押したまま、設定したいリモコン (A、B または C) のスイッチ 2 つを同時に押します。

リモコンは A・B・C の 3 つまで設定できます。

A		+	
B		+	
C		+	



設定が完了すると、パイロットランプが消灯します。

注意

- 新旧、異種の電池を混ぜて使用しないでください。
- 強い衝撃を与えたり水をかけないでください。
- 故障の原因となります。



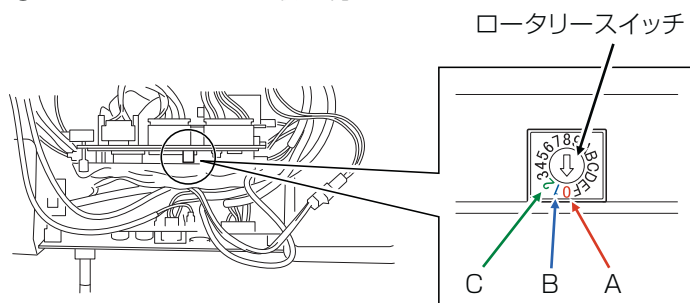
設置と充電

■ コードレス操作ボックス (オプション)

2. 手術台の設定

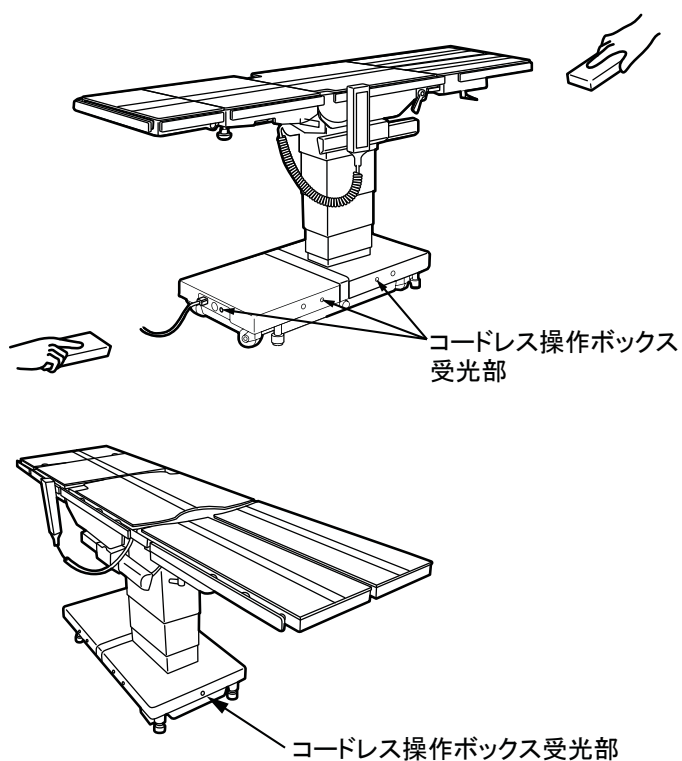
ロータリースイッチは、手術台ベース内部にあります。

- ① ベースのカバーを取り外します。
- ② ロータリースイッチを、設定したリモコンに対応する番号 (0、1 または 2) に合わせます。
- ③ ベースのカバーを取り付けます。



操作

手術台のコードレス操作ボックス受光部に向けて操作します。



⚠ 注意

- 新旧、異種の電池を混ぜて使用しないでください。
- 強い衝撃を与えたり水をかけないでください。
故障の原因となります。

補足

- ロータリースイッチは工場出荷時、0 (リモコン A) に設定してあります。
- コードレス操作ボックスと受光部の間にリネンや器具があるとコードレス操作ボックスからの信号が届きません。
- コードレス操作ボックスの操作で他の電気機器が作動したり、他のリモコンで手術台が作動した時は、ご購入店または弊社までご連絡ください。



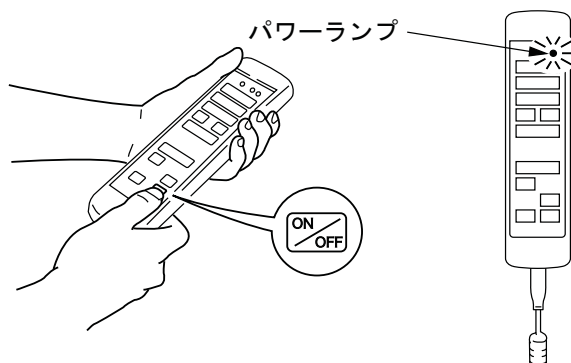
電源の入れ方／切り方

■ 医用コンセントの電源で使用する とき

入れ方

- ① 操作ボックスの を押します。

操作ボックスのパワーランプ(緑)およびベースのパワーランプが点灯して電源が入ります。



切り方

- ① 操作ボックスの を押します。

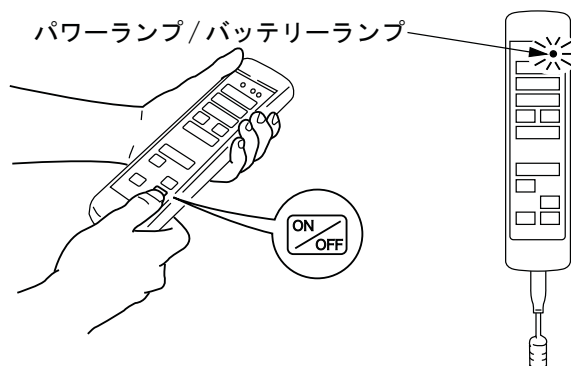
操作ボックスのパワーランプ(緑)が消灯します。

■ バッテリー電源で使用する とき

入れ方

- ① 操作ボックスの を押します。

操作ボックスのパワーランプ(緑)とバッテリーランプ(橙)が点灯して電源が入ります。



切り方

- ① を押します。

操作ボックスのパワーランプ(緑)とバッテリーランプ(橙)が消灯して電源が切れます。

補足

- ・ 緊急時または電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。
- ・ バッテリー電源で使用中、15分以上操作しないと自動的に電源が OFF になります。電源が OFF になっている場合は、電源を入れてください。
- ・ バッテリーインジケータは、電源コードを医用コンセントに接続すると自動的に点灯します。

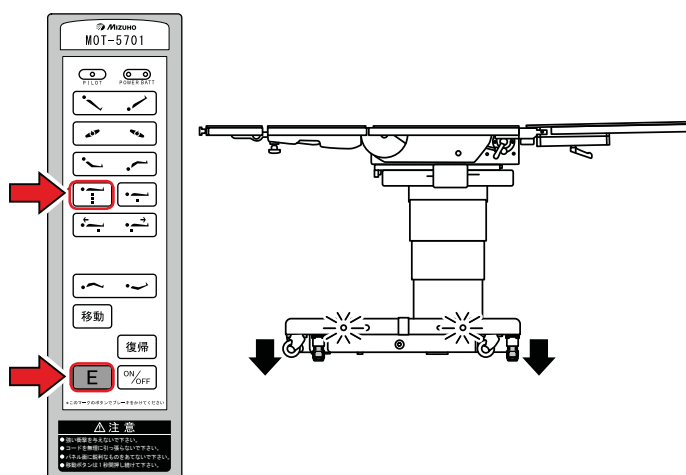


手術台の固定と解除

■ 手術台を固定する

- ① **E** を押しながら **T** を押します。

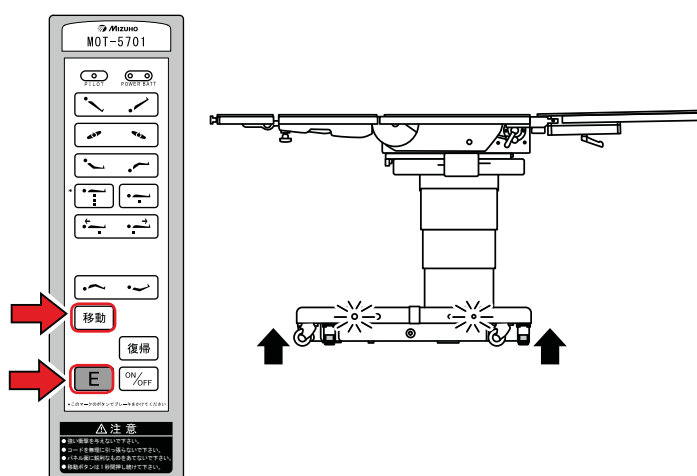
ブレーキが作動して手術台が固定され、ベースのパワーランプが $\textcircled{G}$ になります。上昇はブレーキの作動が完了するまで作動しません。



■ 手術台の固定を解除する

- ① **E** を押しながら **移動** を 1 秒以上押します。

手術台のブレーキが解除されてベースのパワーランプが $\textcircled{R}$ になり、手術台が移動できます。



警告

- ・ブレーキ作動後、手術台が確実に固定されていることを確認してください。
- ・患者を乗せた状態でブレーキ解除をしないでください。患者が転落するおそれがあります。

補足

- ・手術台固定とブレーキ解除は一回 **E** と **T** または **移動** を押すだけで作動します。手術台固定またはブレーキ解除完了までの時間は、約 7 ～ 8 秒です。

- ・ブレーキ固定が作動しない場合、次のように操作してください。

- ① 非常用ブレーキ解除ハンドルが LOCK の状態であることを確認します。
- ② 操作ボックスまたはコードレス操作ボックスで再度ブレーキ固定を操作します。

- ・テーブルトップを中点位置からスライドさせた場合は、テーブルトップを中点位置に戻してからブレーキを作動させてください。

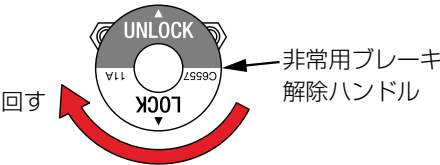
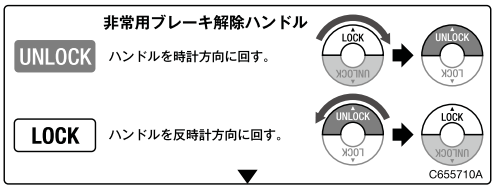


ブレーキを解除する

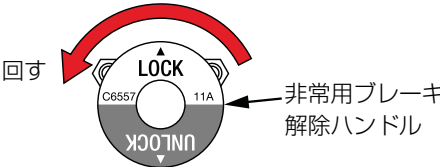
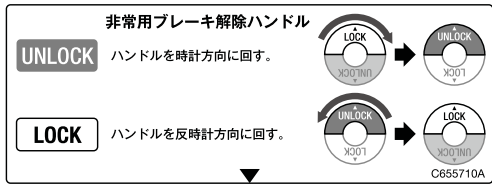
■ 非常用ブレーキ解除ハンドル

手術台の電気系統に異常が起きた場合は、非常用ブレーキ解除ハンドルの操作で手術台を移動することができます。
ブレーキを解除するときは以下の手順で操作を行います。

- ① 非常用ブレーキ解除ハンドルを UNLOCK の方向に回します。
ブレーキが解除されます。



- ② ブレーキ解除確認後、非常用ブレーキ解除ハンドルを LOCK の方向に回します。



- ③ 固定するときは **E** を押しながら **T** を押します。

⚠ 注意

非常用ブレーキ解除ハンドルを UNLOCK 方向に回した後は、必ず LOCK 方向に戻してください。
戻さないと手術台固定を含む全ての機能が作動できません。

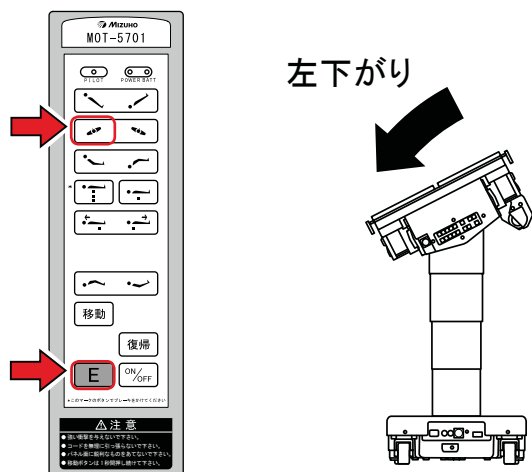


テーブルトップを横に傾ける（横転）

■ 左に下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。

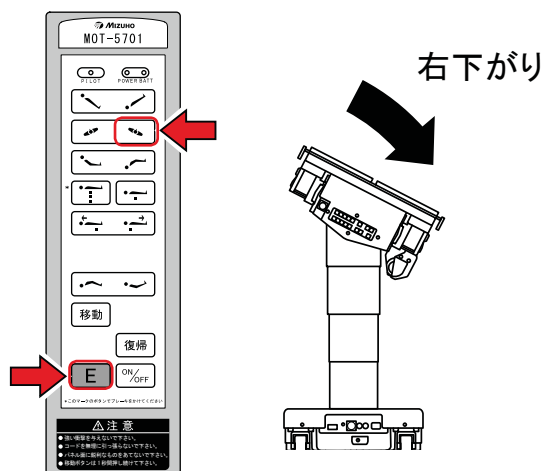
テーブルトップが、頭側から見て左下がりの位置になります。



■ 右に下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。

テーブルトップが、頭側から見て右下がりの位置になります。

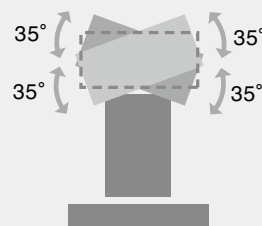


警告

患者を乗せて横転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が落下するおそれがあります。

補足

- 右下がり、左下がりの最大角度は水平位置から 35 度です。



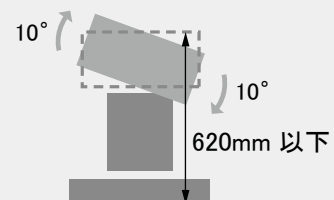
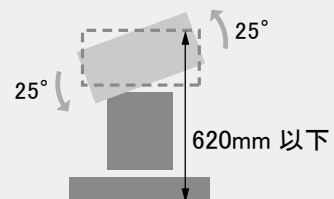
- 水平位置から横転を操作すると、25 度で停止して警告音が鳴ります。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで横転します。
- 横転の位置から反対方向へ横転を操作すると水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで横転します。



テーブルトップを横に傾ける（横転）

制限

テーブルトップが床面より 620mm 以下の高さでは、左下がりの最大角度が 25 度、右下がりの最大角度が 10 度になります。

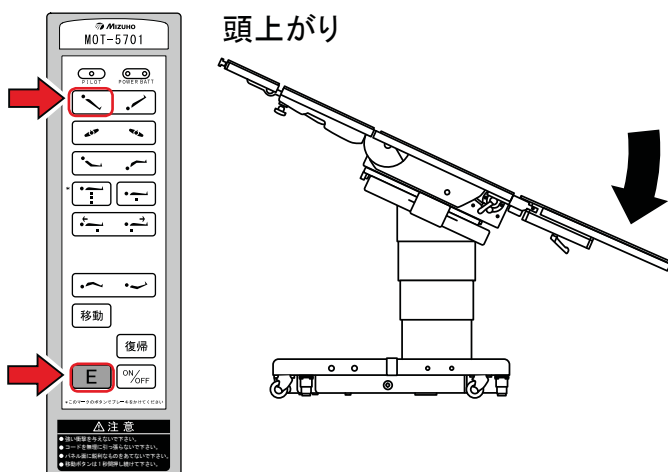




テーブルトップを縦に傾ける（縦転）

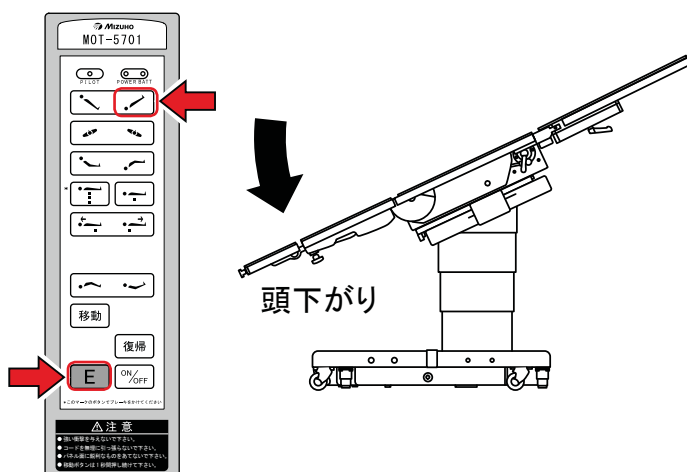
■ 頭を上げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが頭上がりの位置になります。



■ 頭を下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが、頭下がりの位置になります。

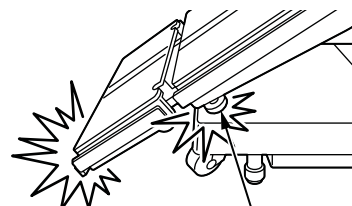


⚠ 警告

患者を乗せて縦転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が落下するおそれがあります。

⚠ 注意

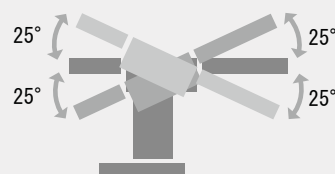
- ・ 頭部板先端が床に接触するまで作動させないでください。破損のおそれがあります。
- ・ 頭部板固定ハンドルがカバーに接触するまで作動させないでください。破損のおそれがあります。



頭部板固定ハンドル

補足

- ・ 頭上がり、頭下がりの最大角度は水平位置から 25 度です。



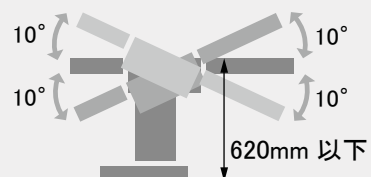
- ・ 縦転の位置から反対方向へ縦転を操作すると水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで縦転します。



テーブルトップを縦に傾ける（縦転）

制限

テーブルトップが床面より
620mm 以下の高さでは、頭
上がりおよび頭下がりの最大角
度がそれぞれ 10 度になります。

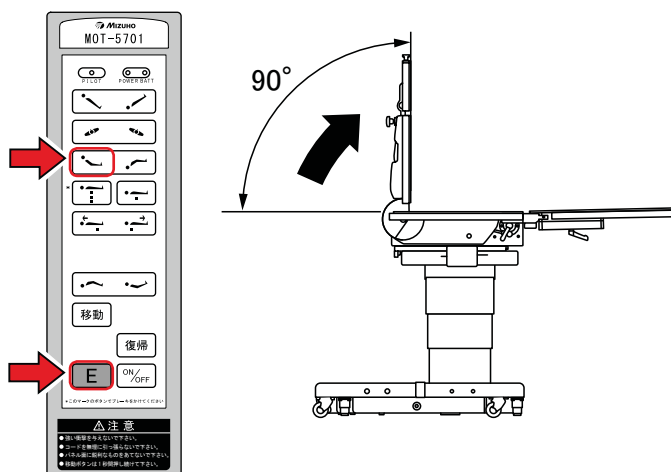




背板を傾ける

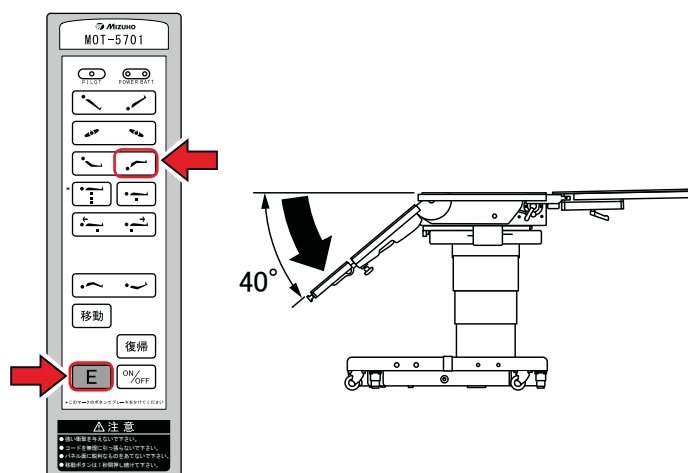
■ 背板を上げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
背板が上がります。



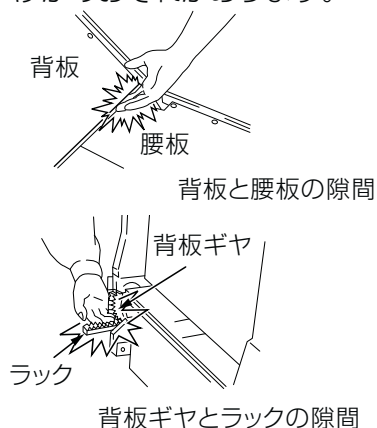
■ 背板を下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
背板下がります。



警告

作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。

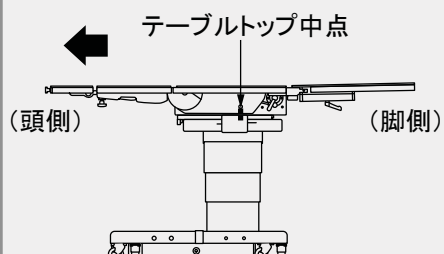


補足

- 背板上がりの最大角度は水平位置から 90 度です。
- 背板下がり最大角度は水平位置から 40 度です。

制限

- テーブルトップ中点が、中点位置より脚側へスライドした状態では、背板は水平位置より下には下がりずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から頭側へスライドすると、背板は下がります。



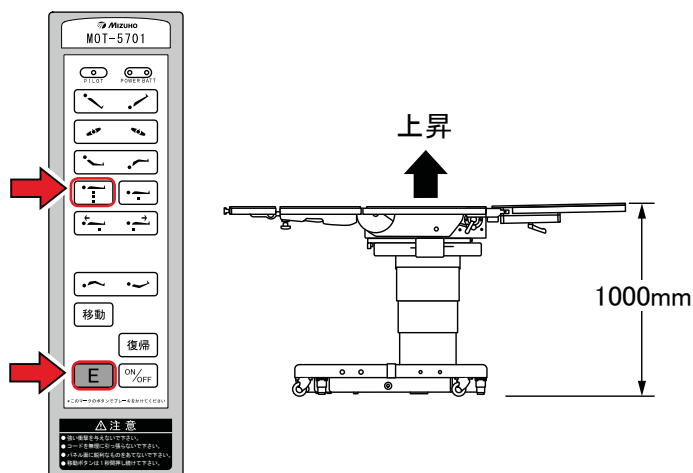
- 背板屈折の位置から反対方向へ背板屈折を操作すると水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで屈折します。



テーブルトップの高さを変える

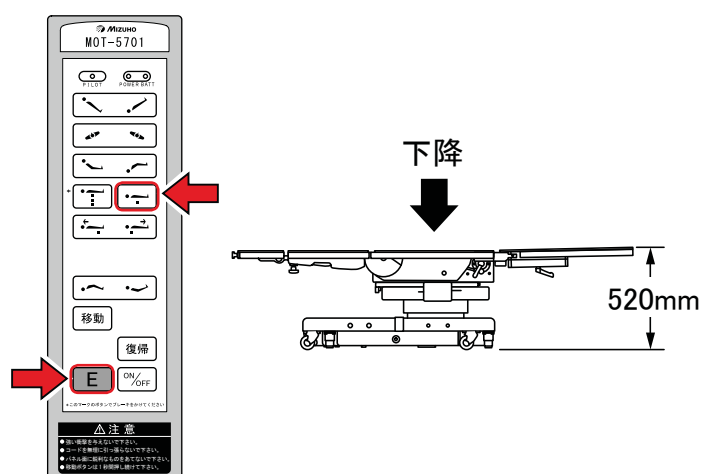
■ テーブルトップを上げる

- ① **[E]** を押しながら **[↑]** を押します。
テーブルトップが上昇します。



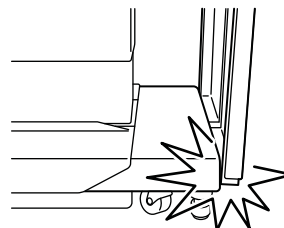
■ テーブルトップを下げる

- ① **[E]** を押しながら **[↓]** を押します。
テーブルトップが下降します。



⚠ 注意

脚板を屈折した状態で下降させないでください。
脚板先端がベースにぶつかり破損するおそれがあります。



補足

- 最高上昇位置は、床面からテーブルトップ上面まで 1000mm です。
- 最低下降位置は、床面からテーブルトップ上面まで 520mm です。

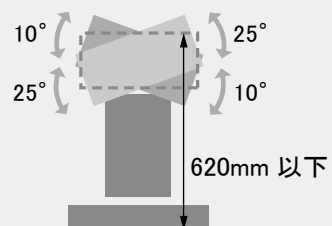
下降を操作すると、床面から 620mm の高さで停止します。
停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと最低位まで下降します。



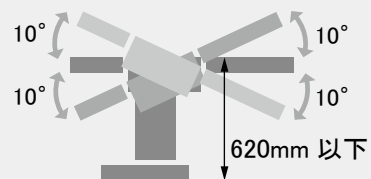
テーブルトップの高さを変える

制限

横転の位置が左下がり 25 度
または右下がり 10 度を超え
た位置では、テーブルトップは
620mm 以下には下降しませ
ん。



縦転の位置が頭上がり 10 度
または頭下がり 10 度を超え
た位置では、テーブルトップは
620mm 以下には下降しませ
ん。

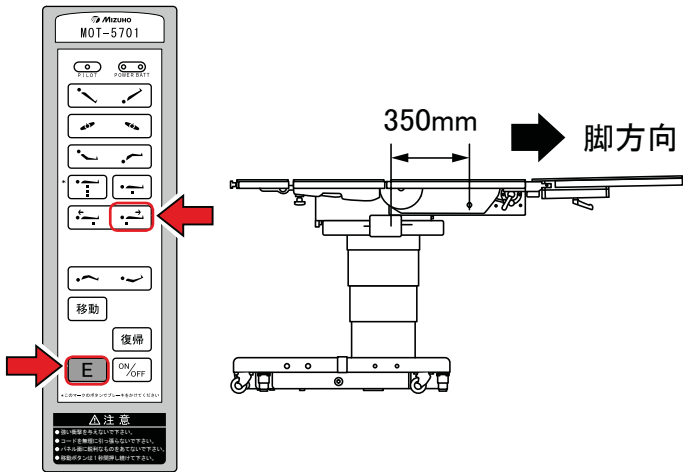




テーブルトップをスライドさせる

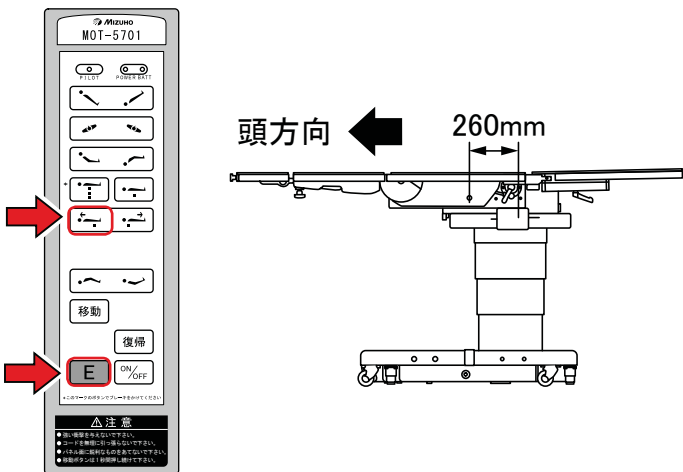
■ 脚方向に動かす

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが脚方向にスライドします。



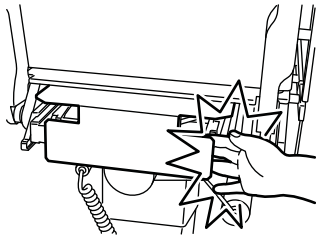
■ 頭方向に動かす

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが頭方向にスライドします。



警告

作動中、フレームの隙間部分に
手を入れないでください。
けがのおそれがあります。



補足

- テーブルトップ中点位置からのスライド最大量は下記のとおりです。

脚方向	350mm
頭方向	260mm

- 脚方向または頭方向にスライドした状態から反対方向へスライドを操作すると中点位置で停止します。停止したらスイッチを離してもう一度スイッチを押すと、最大量までスライドします。
- 手術台を固定する場合は、テーブルトップを中点位置に戻してからブレーキを作動させてください。

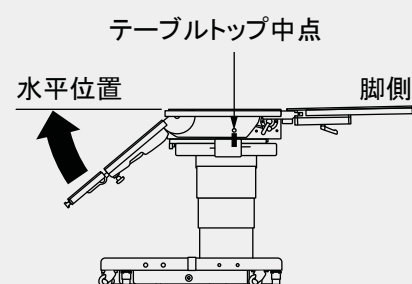


テーブルトップをスライドさせる

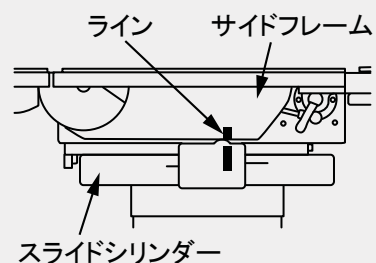
補足

制限

- 背板が水平位置より下がった状態では、スライド機能はテーブルトップ中点位置より脚側へスライドせずブザーが鳴ります。背板を水平位置から上に上げると、テーブルトップは脚側にスライドします。



- テーブルトップの中点位置は、サイドフレームのラインとスライドシリンダーのラインが合致する位置です。



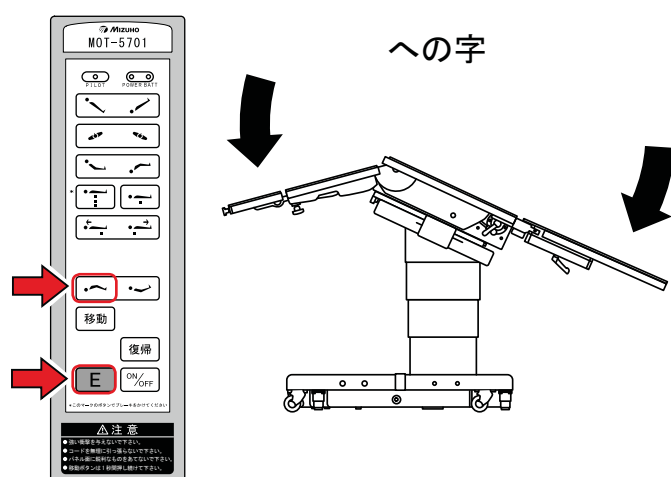


フレックス

■ への字にする

- ① **E** を押しながら  を押します。

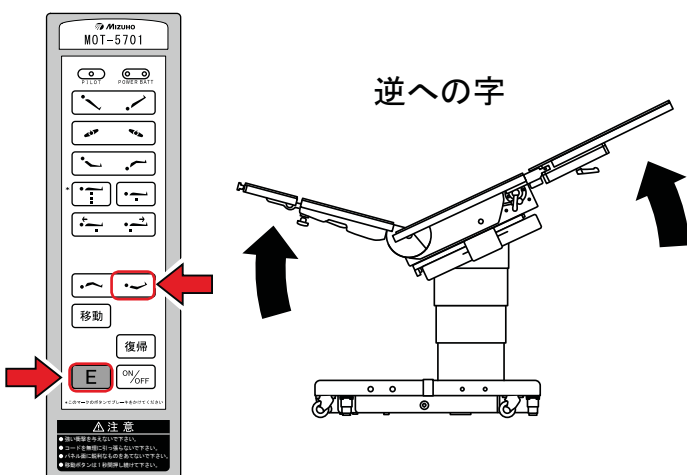
背板が下に屈折および腰板が縦転頭上がりの位置になります。



■ 逆への字にする

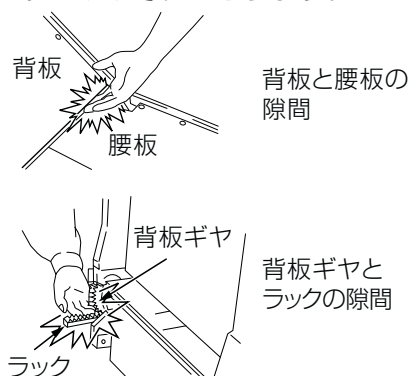
- ① **E** を押しながら  を押します。

背板が上に屈折および腰板が縦転頭下がりの位置になります。



警告

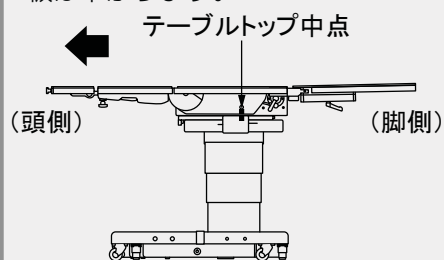
作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。



補足

制限

テーブルトップ中点が、中点位置より脚側へスライドした状態では、への字は作動せずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から頭側へスライドすると、背板は下がります。



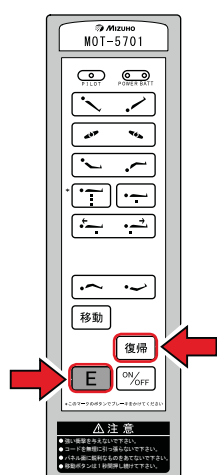


自動水平復帰

■ テーブルトップを水平位置に戻す

- ① **E** を押しながら **復帰** を押します。

縦転・横転・背板屈折およびフレックスが作動して、
テーブルトップが水平位置に戻ります。



補足

昇降・スライドおよびブレーキ
の機能は作動しません。

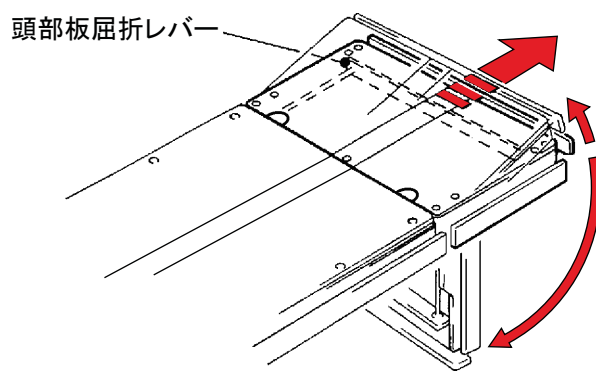


頭部板の調整

頭部板は 15 度区分で、上に 4 段（最大 60 度）、下に 6 段（最大 90 度）屈折します。また、取り外すことができます。

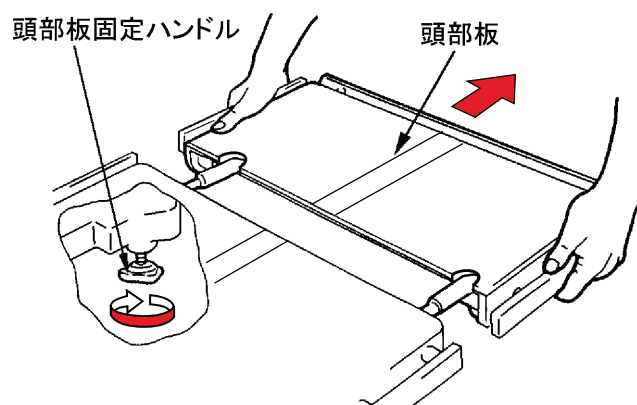
■ 屈折させる

頭部板屈折レバーを頭部側に向けて引きます。頭部板が上下に屈折します。レバーを離すと頭部板はその位置で固定します。



■ 取り外す

- ① 背板下部の 2 個の頭部板固定ハンドルをゆるめます。
- ② 頭部板の両脇をしっかりと持って、頭部板を真っ直ぐに引き出します。



警告

- 頭部板固定ハンドルは必ず締めてください。
頭部板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 頭部板重量は 7kg あるため取扱いに注意してください。
落下して破損・けがをするおそれがあります。

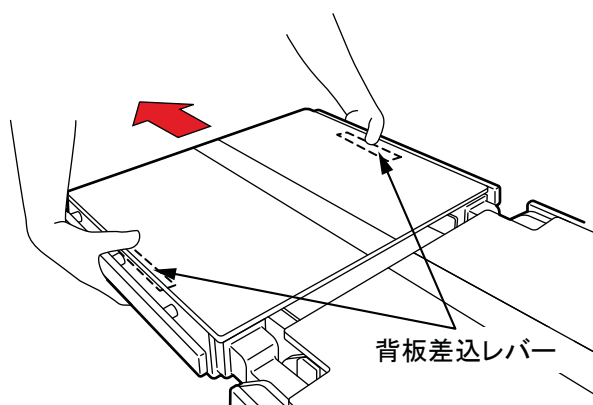


背板の調整

背板は取り外すことができます。

■ 取り外す

- ① 背板下部の背板差込レバーを左右同時に引き上げます。
- ② 背板差込レバーを引き上げたまま背板をしっかり持って、背板を真っ直ぐに引き出します。



警告

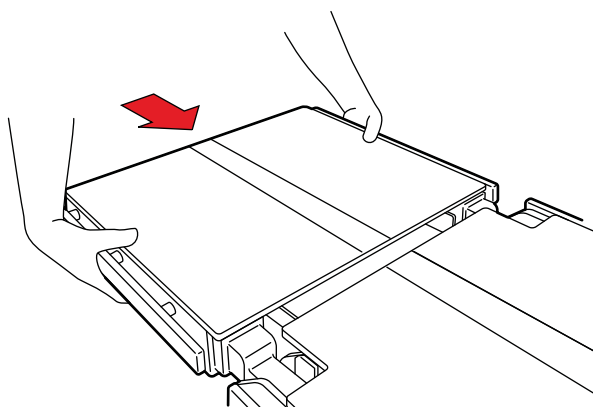
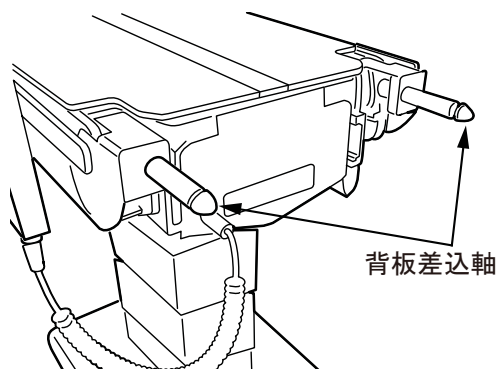
- 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。
背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 背板は重量が 10kg あるため取扱いに注意してください。
落下して破損・けがをするおそれがあります。
- 患者を固定するベルトを締めるときは、必ず背板差込レバーを避けて締めてください。背板差込レバーの上からベルトを締めると、背板差込レバーが押されて背板が外れるおそれがあります。
- 頭部板を装着した状態で背板を取り外さないでください。
落下してけがをするおそれがあります。



背板の調整

■ 取り付ける

- ① 背板差込軸が水平位置であることを確認して、背板を差し込みます。



- ② 背板を引いて、背板が確実に差し込まれていることを確認します。

⚠ 警告

- 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 背板重量は 10kg のため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

補足

- 背板取付ピンにはオプションの専用アクセサリを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリの添付文書または取扱説明書を参照してください。
- 背板を外した状態で背板を操作すると、背板差込軸の左右位置にずれが生じて、背板が取り付けられません。背板差込軸の左右位置がずれた場合は、次ページに記載されている手順に従い、背板を取り付けてください。

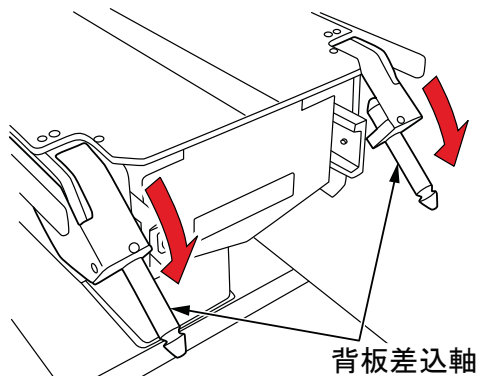


背板の調整

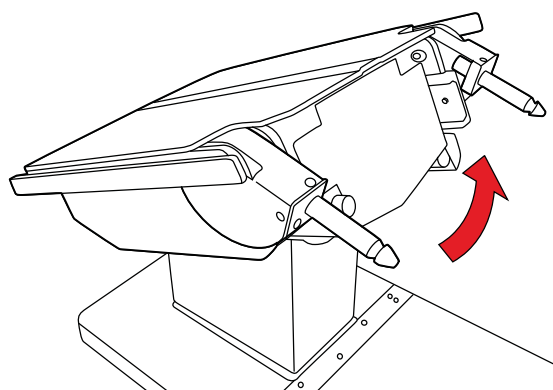
■ 取り付ける

背板差込軸がずれた場合の取り付け方法

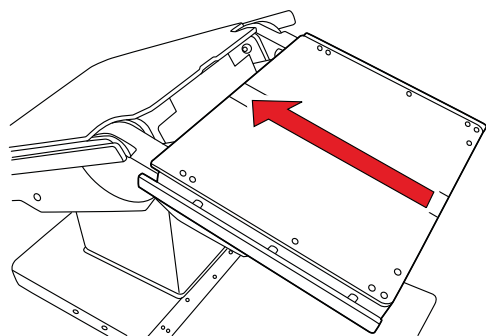
- ① 背板差込軸が停止するまで、**E** を押しながら  を押します。



- ② テーブルトップが停止するまで、操作ボックスの **E** を押しながら  を押します。



- ③ 背板差込軸に背板を差し込みます。



- ④ 背板を引いて、背板が確実に差し込まれていることを確認します。

⚠ 警告

- ・ 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- ・ 背板は重量が 10kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

補足

背板差込軸にはオプションの専用アクセサリを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリの添付文書または取扱説明書を参照してください。

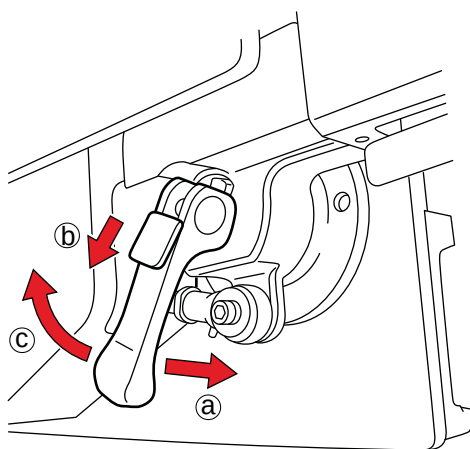


脚板の調整

脚板は左右別々に下に最大 90 度屈折・外側に最大 50 度または 40 度展開および取り外しができます。

■ 屈折させる

- ① 脚板先端を持ち、脚板屈折レバーを握ります。
- ② 脚板屈折レバーを押しながらロックを引き下げ、そのまま脚板屈折レバーをゆっくりと手前に引きます。



- ① 脚板先端を持ち、脚板屈折レバーを握ります。
- ② 脚板屈折レバーを押しながらロックを引き下げ、そのまま脚板屈折レバーをゆっくりと手前に引きます。
- ③ 脚板を屈折させます。
- ④ 設定する位置で脚板屈折レバーをロックがかかる（“カチッ”と音がする）まで押します。
- ⑤ 設定する位置で脚板屈折レバーをロックがかかる（“カチッ”と音がする）まで押します。

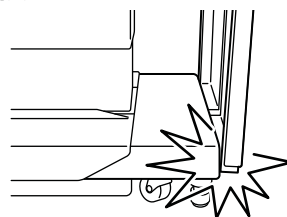
- ③ 脚板を屈折させます。
- ④ 設定する位置で脚板屈折レバーをロックがかかる（“カチッ”と音がする）まで押します。

警告

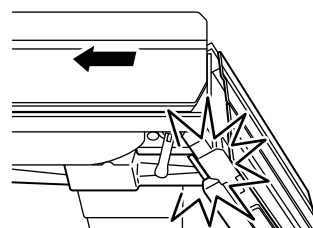
- ・脚板屈折レバーは必ず締めてください。脚板が動いて患者または作業者がけがをするおそれがあります。

注意

- ・レバーを引くときにはゆっくりと操作してください。指がはさまり、けがをするおそれがあります。
- ・脚板を 90 度屈折した状態で下降・縦転頭上がりを作動しないでください。脚板先端がベースにぶつかり破損するおそれがあります。



- ・脚板を屈折した状態でスライド頭方向を作動しないでください。脚板がスライドシリンダーにぶつかり破損するおそれがあります。



補足

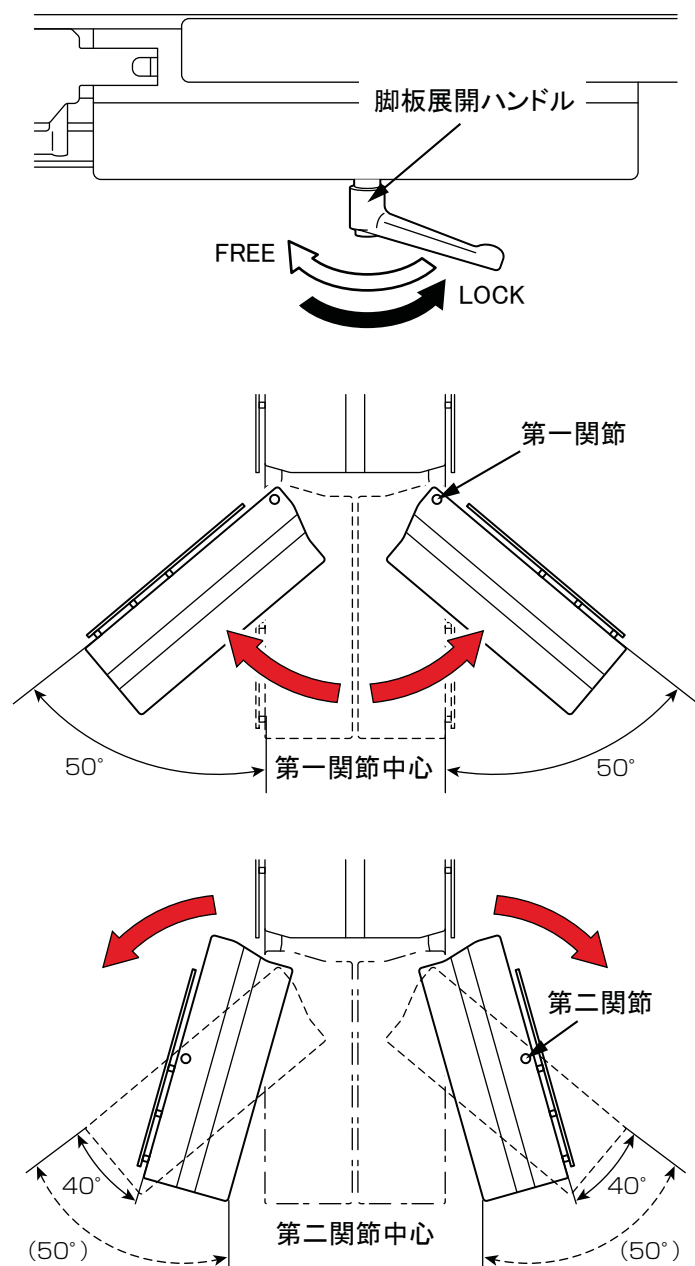
脚板屈折レバーのロック部に黄色い印が見えるときは、ロックが不十分な状態です。脚板屈折レバーを押して、黄色い印が見えなくなるまでロックを作動させてください。



脚板の調整

■ 展開させる

- ① 脚板展開ハンドルを緩めます。
- ② 脚板を外側に引きます。
- ③ 設定する位置で脚板展開ハンドルを締めて固定します。



警告

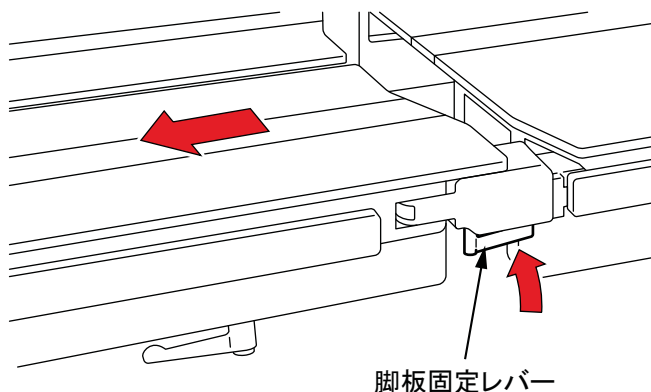
- ・ 脚板展開ハンドルは必ず締めてください。脚板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。



脚板の調整

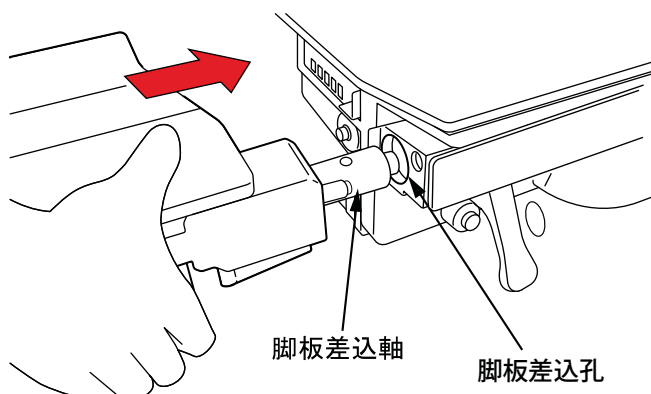
■ 取り外す

- ① 脚板をしっかり持って、脚板固定レバーを押しながら脚板を引き抜きます。



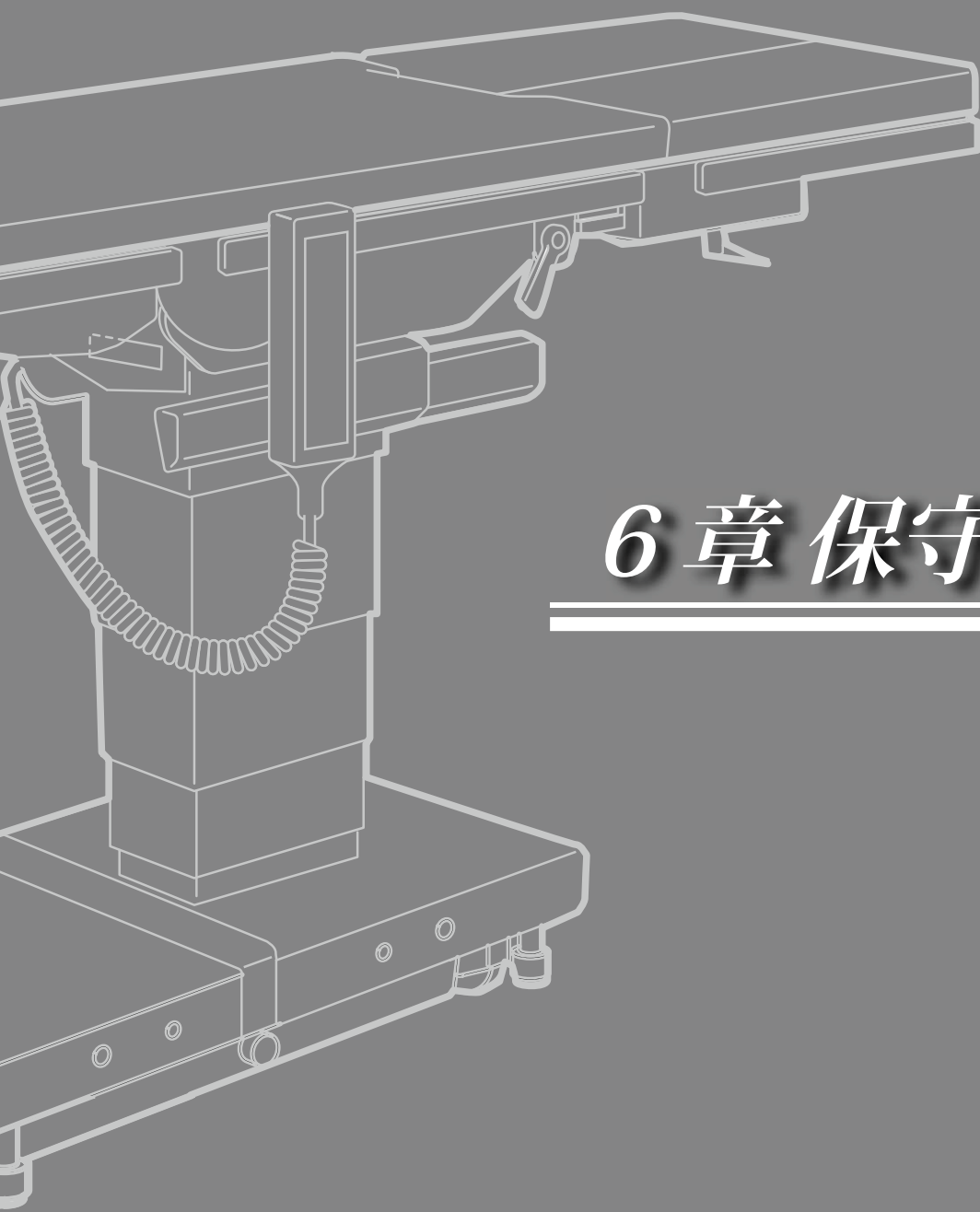
■ 取り付ける

- ① 脚板をしっかり持って、脚板の差込軸を差込孔に合わせて挿入します。



⚠ 警告

- 脚板を取り付けた後は、脚板を前後に揺すって脚板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。脚板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 脚板重量は 8kg (片側) のため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。



6 章 保守と点検

6
保守と点検

Maintenance

使用前・使用後の点検

下記の事項を点検して、異常があればご購入店または弊社まで修理を依頼してください。



警告

手術台の使用前および使用後は必ず点検事項を確認し、異常がある場合はご購入店または弊社に修理を依頼してください。手術に支障が生じるおそれがあります。

マットレス

使用前

- すべてのマットレスに破損がないか。

使用後

- すべてのマットレスに破損または汚れがないか。

テーブルトップのガタ

使用前

- 背板両端を持って上下左右に揺すったときにガタがないか。

テーブル板

使用前

- すべてのテーブル板に破損がないか。

使用後

- すべてのテーブル板に破損または汚れがないか。

操作ボックス

使用前

- 操作ボックスのスイッチを押して、すべての機能が正常に作動するか。

予備スイッチ

使用前

- 備スイッチを押して、全ての機能が正常に作動するか。

電源 ON/OFF スwitch

使用前

- 操作ボックスの電源 ON/OFF スwitchを押して、操作ボックスおよびベースのパワーランプが点灯するか。

電源コードおよびプラグ

使用前

- 導線の露出またはプラグの破損がないか。

油漏れ

使用前

- 床またはベース表面に作動油が付着していないか。

使用後

- 床またはベース表面に作動油が付着していないか。

バッテリー

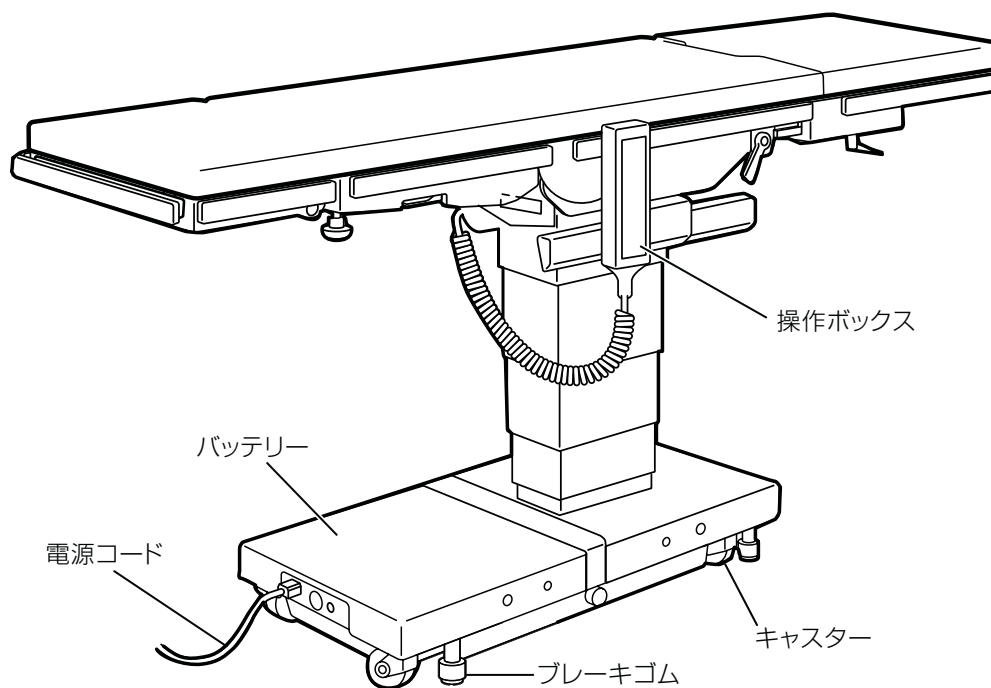
使用前

- バッテリーは充電された状態か。

定期交換部品

安全に使用していただくために、定期的に交換することを弊社で設定しております。
交換時期は目安です。使用の状況または使用頻度によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。

交換にあたっては、ご購入店または弊社に依頼してください。



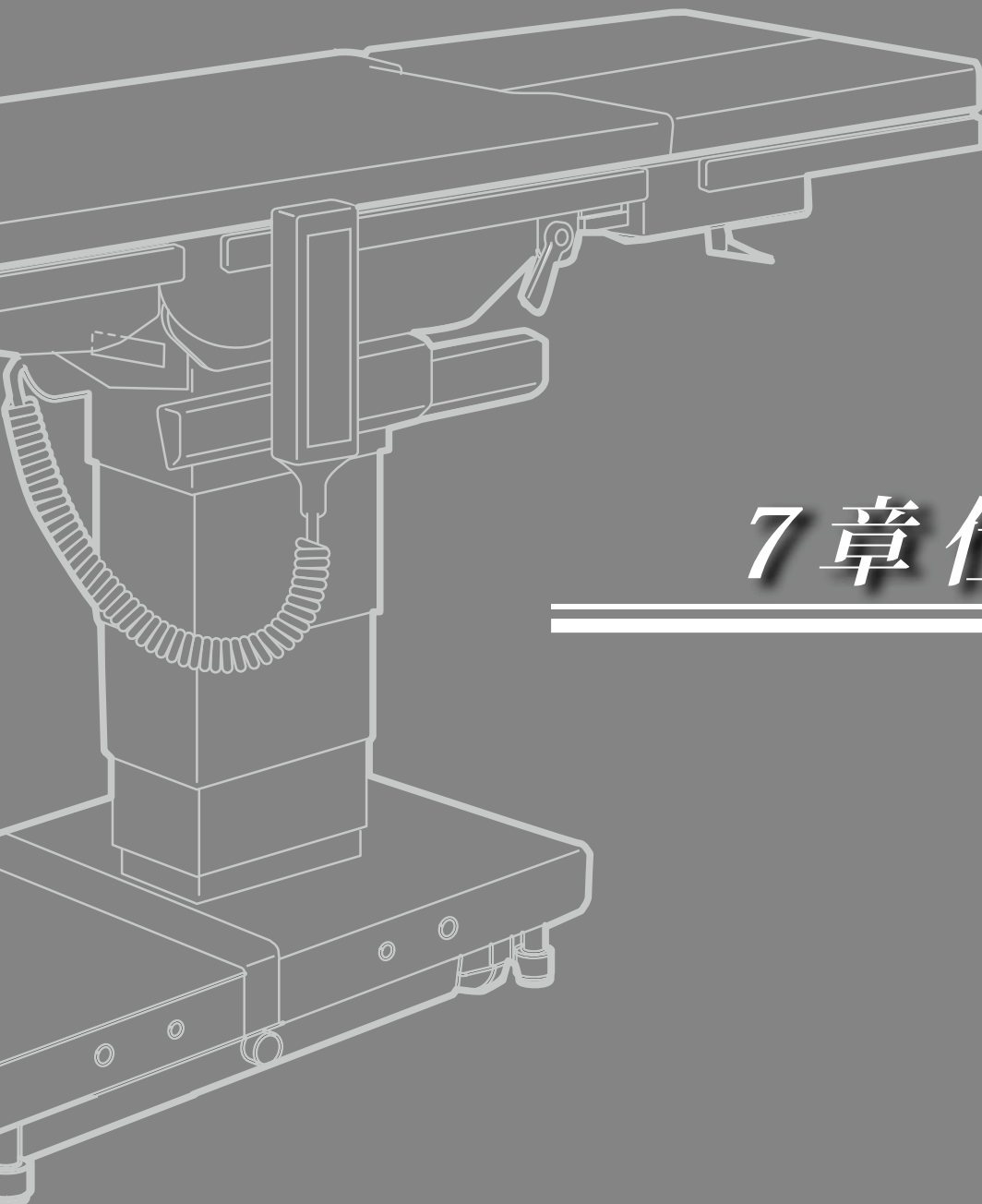
部品名	交換時期
バッテリー	2～3年
操作ボックス	4～6年
キャスター	5～7年
ブレーキゴム	3～5年
電源コード	5～7年

※上記は目安の期間です。使用条件により交換時期が変わります。

業者による保守点検事項

本装置を安全に使用するために、弊社及び弊社が認めた業者による年 1 回の定期点検を実施してください。それ以外の業者による保守・点検は、有害事象の発生、性能・機能の低下を招くおそれがあります。

定期点検を希望される場合は、ご購入店または弊社にお問い合わせください。



7 章 仕様

Specification

仕様表

販売名			電動油圧手術台 MOT-5701
分類	製造販売届出番号		13B1X00306N10144
	類別		機械器具1 手術台及び治療台
	一般的名称・JMDN コード		汎用電動式手術台 36867020
	クラス分類		一般医療機器 特定保守管理医療機器
電動	昇降範囲	最高位	1000mm
		最低位	520mm
	縦転角度	頭下がり	25°
		頭上がり	25°
	横転角度	右下がり	35°
		左下がり	35°
	背板屈折角度	上がり	90°
		下がり	40°
	スライド量：注 1	頭方向	260mm
		脚方向	350mm
	フレックス		への字／逆への字
	自動水平復帰		縦転／横転／背板屈折／フレックス
	その他		手術台の固定／解除
	操作機器	操作ボックス	昇降、縦転、横転、背板屈折、スライド、フレックス、水平復帰、ブレーキ、E スイッチ、電源 ON/OFF
コードレス操作ボックス：注2		昇降、縦転、横転、背板屈折、スライド、フレックス、水平復帰、ブレーキ、E スイッチ、電源 ON/OFF	
予備スイッチ		昇降、縦転、横転、背板屈折、スライド、フレックス、水平復帰、ブレーキ、E スイッチ、電源 ON/OFF	
手動	頭部板	上がり	60°
	屈折角度	下がり	90°
	脚板屈折角度	下がり	90°
	脚板展開角度	左右各	50°：第一関節中心／40°：第二関節中心
	取外し	頭部板／背板／脚板（左右）	
	その他	非常用ブレーキ解除ハンドル	
電気的定格	JIS T0601-1 による分類		クラスI機器（内部電源機器：注 3）：電撃に対する保護の形式 B 形装着部：電撃に対する保護の程度による装着部 IPX4：水の有害な侵入に対する保護の程度
	定格電源電圧		AC100V
	定格電源周波数		50-60Hz
	バッテリー電源電圧		DC24V
	電源入力		450VA
	操作電圧		DC5V・24V
	連続作動時間		3 分 ON、7 分 OFF：注 4
	その他		本製品は EMC 規格 JIS T0601-1-2：2002 に適合
寸法	テーブルトップ寸法		2080mm（長）x 500mm（幅）：注 5
	ベース寸法		1000mm（長）x 480mm（幅）：注 6
質量			405kg
許容荷重			昇降：360kg／昇降以外の作動：270kg
設置環境	周囲温度範囲		10℃～40℃：注 7
	相対湿度範囲		30%～75%：注 7
	気圧範囲		700hPa～1060hPa：注 7
保管条件	周囲温度範囲		-10℃～50℃：注 8
	相対湿度範囲		10%～85%（結露なし）：注 8
	気圧範囲		700hPa～1060hPa：注 8
耐用期間			指定した保守点検および適切な保管をした場合 10 年：注 9

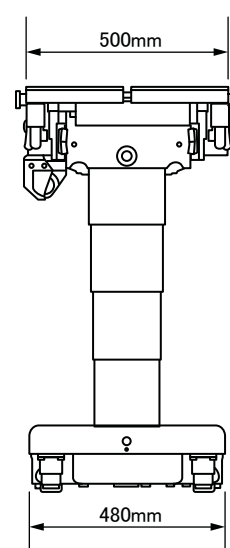
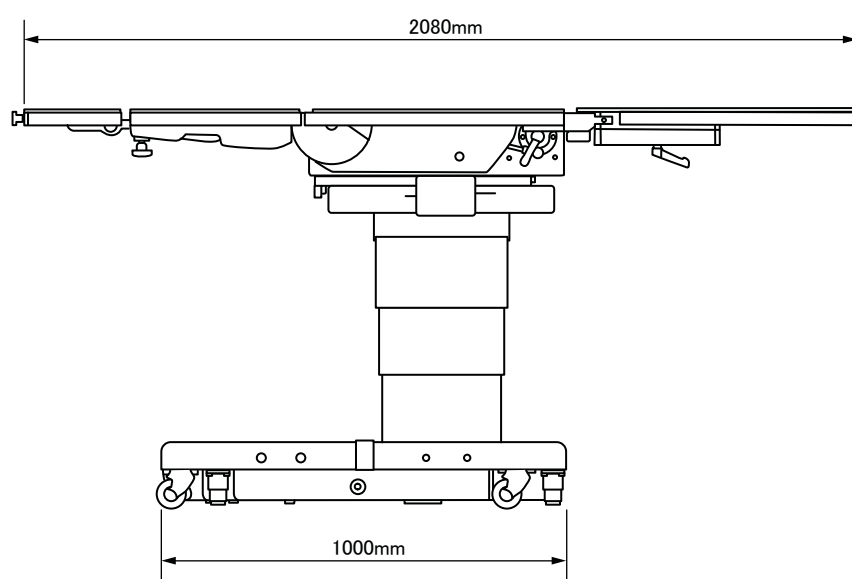
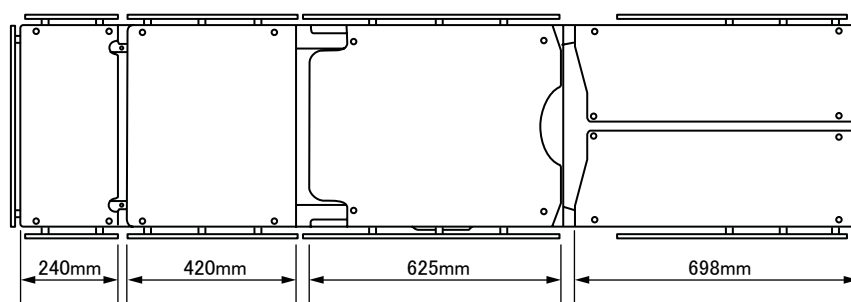
注1：中点位置から（サイドフレームとスライドシリンダーのラインが合致する位置） 注2：オプション 注3：バッテリー電源使用時

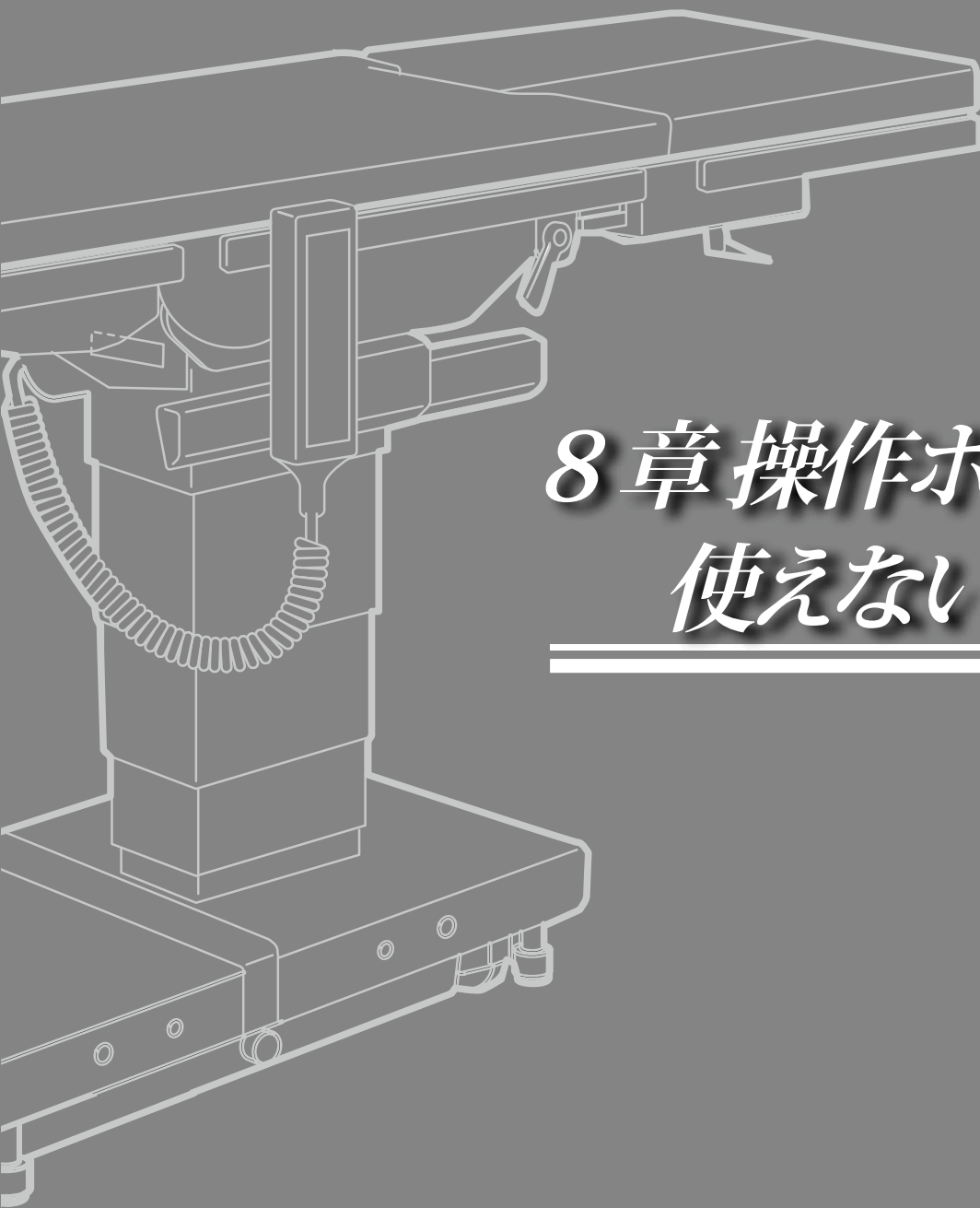
注4：操作ボックスのスイッチを連続して押している状態。

注5：サイドレール部を除く 注6：概略寸法 注7：JIS T0601-1 医用電気機器—安全に関する一般的要求事項（環境条件）

注8：弊社基準 注9：自己認証（弊社データ）による

外觀図





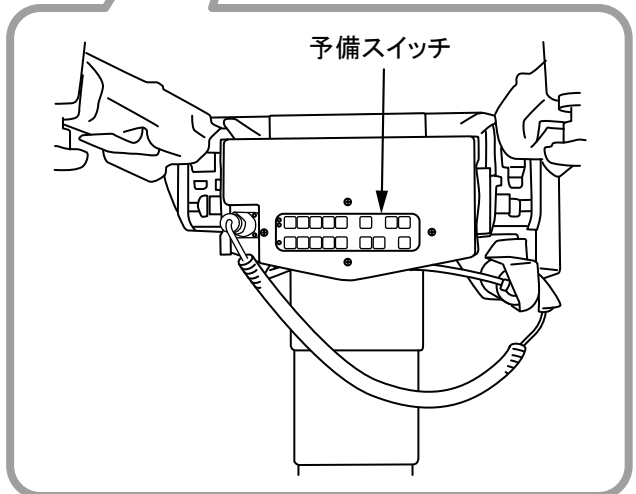
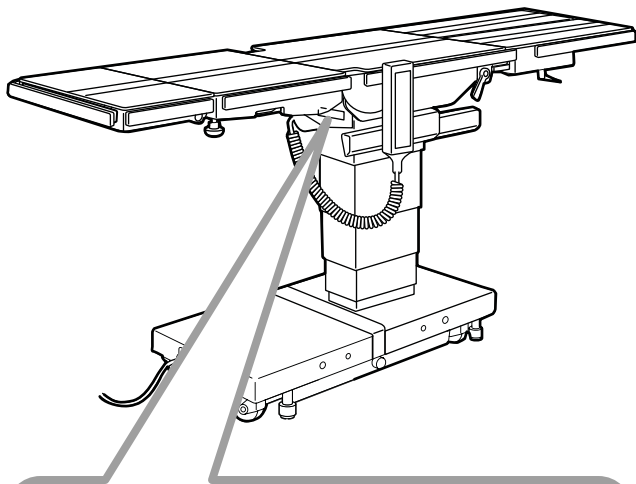
8章 操作ボックスが 使えないときは?

8
操作ボックスが
使えないときは?

Trouble shooting

手術台を操作する

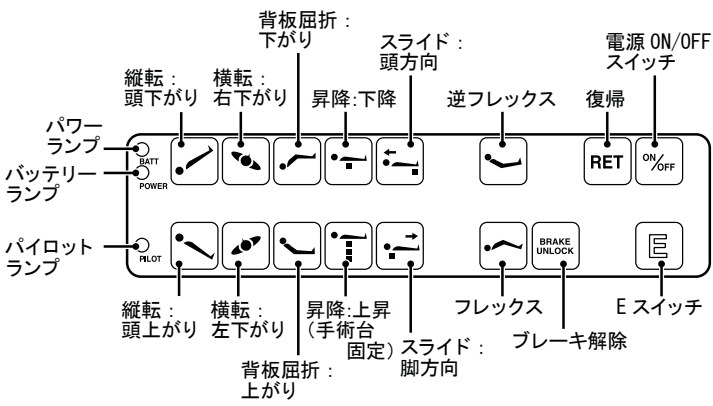
■ 予備スイッチ



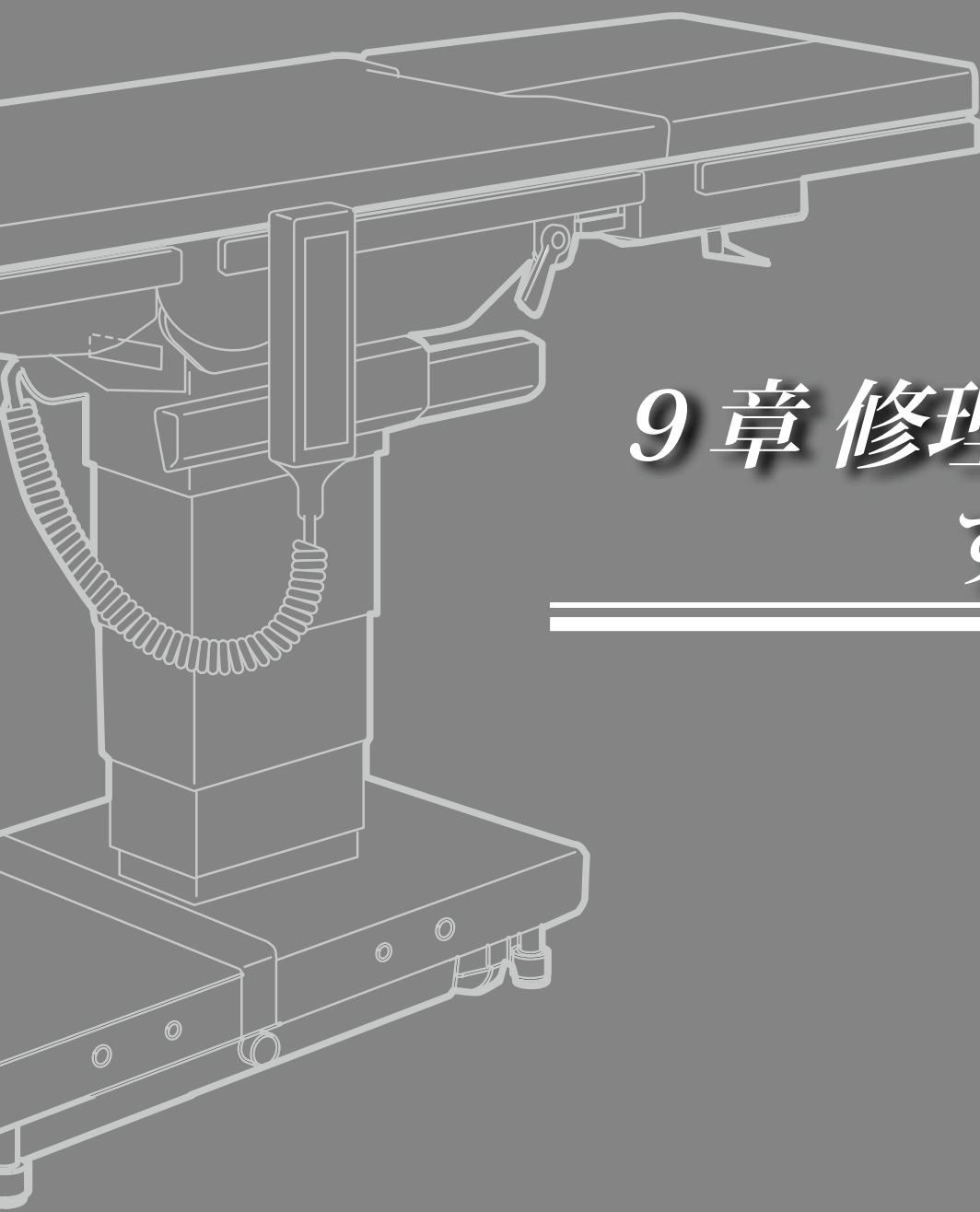
! 注意

予備スイッチは緊急時のみ使用してください。

- ① 予備スイッチを操作ボックスと同じように押します。スイッチを押している間作動します。最大角度になると停止します。



8 操作ボックスが
使えないときは？



9 章 修理を依頼 する前に

Trouble shooting

修理を依頼する前に

■ 故障でない場合

以下の状態は故障ではない場合があります。修理を依頼する前にもう一度調べてください。

状態	考えられる原因	対策
電源が入らない	1. 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない 2. バッテリーの完全放電	1. コネクタを完全に差し込んでください (→ P23) 2. バッテリーを充電してください (→ P21)
操作ボックスの機能スイッチを押しても作動しない	1. 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない 2. 機能スイッチと同時に E スイッチを押していない 3. 保護回路が作動	1. コネクタを完全に差し込んでください (→ P23) 2. E スイッチを押しながら機能スイッチを押してください (→ P29 ~ 41) 3. 約 7 分待ってから操作してください (→ P17、P18、P23)
コードレス操作ボックスで電源が入らない	1. バッテリーの容量が低下している 2. 電源を入れない状態が 6 日以上続いた 3. コードレス操作ボックスの電池が寿命	1. 手術台を充電してください (→ P21) 2. バッテリー保護機能が働いています 操作ボックスで電源を入れてください (→ P28) 3. 電池を交換してください (→ P25)
操作ボックスのブレーキスイッチを押しても作動しない	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルが UNLOCK の状態	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルを LOCK にしてください (→ P30)
コラムのパワーランプ赤が点滅している	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルが UNLOCK の状態	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルを LOCK にしてください (→ P30) 2. 電源を切ってください (→ P28) 3. 再度、電源を入れてください (→ P28)
背板が水平位置より下に屈折できない	1. テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	1. テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P38)
テーブルトップが中点位置より脚側にスライドできない	1. 背板が水平位置より下にある	1. 背板を水平位置より上に上げてください (→ P35)
フレックスがへの字に作動しない	1. テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	1. テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P35)
コードレス操作ボックスが作動しない	1. 電池が切れている 2. コードレス操作ボックスと手術台の設定が違っている	1. 電池を交換してください (→ P25) 2. コードレス操作ボックスと手術台の設定を合わせる (→ P26 ~ 27)

上記の対策を行っても状態が改善されない場合は、ご購入店または弊社まで修理を依頼してください。

故障時の対応

手術台および操作ボックスが故障したときは、以下の処置をしてください。

- ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
- ② 手術台本体に「故障」・「使用禁止」等の表示をします。

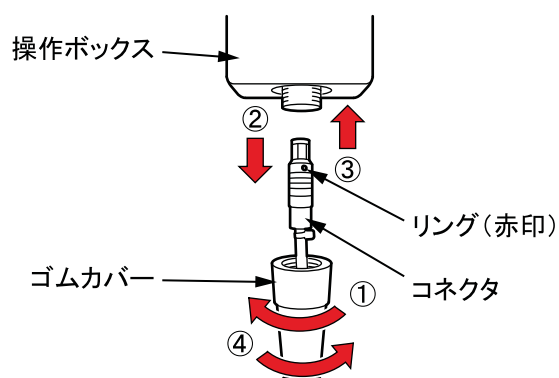
警告

- ・ 修理は弊社および弊社が認めた業者が行います。必ずご購入店または弊社へ修理を依頼してください。
- ・ 分解しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ・ 感染防止のため、修理を依頼するときは必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

■ 操作ボックスのコードの外しかた／取り付けかた

操作ボックスのコードが破損した場合に交換用のコードと交換してください。

- ① ゴムカバーを回して外します。
- ② 中のコネクタのリング（赤印）を引いて抜きます。
- ③ 交換用コードのコネクタのリング（赤印）を上向きにして挿入します。
- ④ ゴムカバーを回して締めます。



ミズホ株式会社

■本社

〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目30番地13号
URL: www.mizuho.co.jp

手術機器事業部

TEL 03-3815-3097 / FAX 03-3813-5068

整形・脳神経外科事業部

TEL 03-3815-3096 / FAX 03-3813-5068

特販事業部

TEL 03-4334-9111 / FAX 03-3815-3185

■各営業拠点

北海道センター

〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目6番地 37山京ビル2F
TEL 011-716-4731 / FAX 011-716-4803

東北センター

〒980-0014
仙台市青葉区本町1丁目11番2号 SK 仙台ビル2F
TEL 022-227-1688 / FAX 022-227-1698

新潟センター

〒951-8062
新潟市中央区西堀前通1番町702番地 西堀1番町ビル6F
TEL 025-229-5458 / FAX 025-222-4684

東海センター

〒464-0075
名古屋市千種区内山3丁目17番4号 スズシン第2ビル3F
TEL 052-732-7130 / FAX 052-732-7131

関西センター

〒550-0004
大阪市西区靱本町1丁目10番24号 三共本町ビル7F
TEL 06-6444-3840 / FAX 06-6444-3860

中国センター

〒730-0045
広島市中区鶴見町3番19号 板倉ビル4F
TEL 082-241-8826 / FAX 082-241-8836

九州センター

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東3丁目1番1号 ノーリツビル福岡5F
TEL 092-431-5022 / FAX 092-474-4483